

148 アッラーは悪口(批判の声)を公にするのを好まれないどころか、それを憎み、懲罰を約束しておられる。しかしながら、不当な扱いを受けた者は、悪口を公にしてもよい。不当な行いをする者への苦情を訴えて呪うための、許可されるのは被害と同程度である。とはいえ、不当な扱いを受けた者は受けた者で、悪口を公にするよりも耐え忍んだほうがよい。アッラーはあなたがたの発言を聞いておられ、その意図を知っておられるのだから、悪口やその意図には注意せよ。

149 あなたがたがよい言葉、あるいはよい行いを見せても、あるいはそれ(不当な扱いを受けたこと)を隠しても、あるいは無礼をなした者を大目に見てやるなら、アッラーはよく赦す全能な御方である。人徳を示す容赦をもって相手に応じるなら、きっとアッラーも赦してくださるだろう。

150 アッラーや使徒たちをも信じようとしない者、アッラーとその使徒たちを、アッラーを信じはしても使徒たちについては「わたしたちはある使徒たちのことは信じるが他の使徒たちは信じない」と別々にしようと望む者、そして不信仰と信仰の間の道を取りつけようとする者は、それが救いだと思い込んでいる。

151 この道を行こうとする、そうした者こそ、本当の不信仰者である。使徒たちをその一部でも信じない者は、アッラーとその使徒たちを信じないことになるからである。われらは不信仰者のために、アッラーとその使徒たちへの信仰を否定した傲慢さに対する罰として、復活の日に屈辱的な懲罰を用意した。

こうしてアッラーは不信仰者への報いを語られた後、信者への報いについて仰せられたのである。

152 アッラーを信じて唯一の存在とし、使徒たち全てを信じ、不信仰者のように使徒たちの間を分けようせず、全員を信じる者は、かれらの信仰とその信仰から湧き出るよい行いへの報いとしてアッラーが偉大な報奨をお恵みくださるだろう。アッラーはその僕たちのうちで悔い改める者をよく赦して下さる、慈悲深い御方である。

153 使徒よ、ユダヤ教徒はあなたの誠実さの印となるようムーサーに起きたように全て一度に啓典が下されるようにあなたに求めるだろう。だがそんなことは気にしなくともよい。かれらの先祖はムーサーにもっと大変なことを求めたくらいだからである。かれらはアッラーを目で見るようにしろと求めたせいで、罰として気絶させられてしまった。それからアッラーに蘇らせてもらい、かれこそが唯一の神であることを明らかにする様々な印がもたらされた後でアッラーとは別に牛を崇めるようになったのである。それでもわれらはかれらを大目に見てやり、その民に対する明らかな証をムーサーに与えた。

154 誓約を果たすよう脅すために山を持ち上げて言ったのである。「エルサレムへ平伏礼をしながら頭を下げて入れ。」ところがかれらは這いつくばって入った。われらは言った。「土曜日に狩りをして、背いてはならない。」だがかれらは背いて狩りをした。われらはかれらと重い誓約を交わしたが、かれらはまたその誓約を破ったのだ。

本諸節の功德:

- 不当な扱いを受けた者は、たとえそれが不当な行いをした者を喜ばせるものではなかったとしても、自分の権利を取り戻すべく、自分の受けた不当な扱いとその当事者について語ってもよい。
- たとえ(仕返しが)できたとしても、完全な主がその僕たちに対してすぐに罰を与えることができるにもかかわらず赦して下さるように、不当な扱いを受けた者も相手を容赦することが勧められる。
- 使徒たちの一部を信じ、他の使徒たちを信じないということは許されず、全員を信じなければならない。

لَا يَجِبُ اللَّهُ الْجَهْرَ بِالسُّوِّءِ مِنَ الْقَوْلِ إِلَّا مَنْ ظَلَمَ وَكَانَ اللَّهُ سَمِيعًا عَلِيمًا ﴿١٤٨﴾ إِنْ تُبَدُّوْا خَيْرًا أَوْ تُخَفُّوْهُ أَوْ تُعْفَوْنَ عَنْ سُوِّءِ فَإِنَّ اللَّهَ كَانَ عَفُوًّا قَدِيرًا ﴿١٤٩﴾ إِنَّ الَّذِينَ يَكْفُرُونَ بِاللَّهِ وَرُسُلِهِ وَيُرِيدُونَ أَنْ يُفَرِّقُوا بَيْنَ اللَّهِ وَرُسُلِهِ وَيَقُولُونَ نُؤْمِنُ بِبَعْضٍ وَنَكْفُرُ بِبَعْضٍ وَيُرِيدُونَ أَنْ يَتَّخِذُوا بَيْنَ ذَلِكَ سَبِيلًا ﴿١٥٠﴾ أُولَٰئِكَ هُمُ الْكٰفِرُونَ حَقًّا وَأَعْتَدْنَا لِلْكَٰفِرِينَ عَذَابًا مُّهِينًا ﴿١٥١﴾ وَالَّذِينَ آمَنُوا بِاللَّهِ وَرُسُلِهِ وَلَمْ يُفَرِّقُوا بَيْنَ أَحَدٍ مِنْهُمْ أُولَٰئِكَ سَوْفَ يُؤْتِيهِمْ أَجْرُهُمْ وَكَانَ اللَّهُ غَفُورًا رَحِيمًا ﴿١٥٢﴾ يٰۤمَعْزَلُ أَهْلُ الْكِتٰبِ أَنْ تَنْزِلَ عَلَيْهِمْ كِتٰبًا مِنَ السَّمَآءِ فَقَدْ سَأَلُوا مُوسَىٰ أَكْبَرَ مِنْ ذٰلِكَ فَقَالُوا أَرِنَا اللَّهَ جَهْرَةً فَأَخَذَتْهُمُ الصَّعِقَةُ بِظُلْمِهِمْ ثُمَّ اتَّخَذُوا الْعِجْلَ مِنْ بَعْدِ مَا جَاءَتْهُمُ الْبَيِّنٰتُ فَعَفَوْنَا عَنْ ذٰلِكَ وَءَاتَيْنَا مُوسَىٰ سُلْطٰنًا مُّبِينًا ﴿١٥٣﴾ وَرَفَعْنَا فَوْقَهُمُ الطُّورَ بِمِيثَاقِهِمْ وَقُلْنَا لَهُمُ ادْخُلُوا الْبَابَ سُجَّدًا وَقُلْنَا لَهُمْ لَا تَعْدُوا فِي السَّبْتِ وَأَخَذْنَا مِنْهُمْ مِيثَاقًا غَلِيظًا ﴿١٥٤﴾

فِيمَا نَقَضْتَهُمْ مِيثَاقَهُمْ وَكَفَرْتَهُمْ بِآيَاتِ اللَّهِ وَقَتْلَهُمُ الْأَنْبِيَاءَ
 بِغَيْرِ حَقٍّ وَقَوْلِهِمْ قُلُوبُنَا غُلْفٌ بَلْ طَبَعَ اللَّهُ عَلَيْهَا بِكُفْرِهِمْ
 فَلَا يُؤْمِنُونَ إِلَّا قَلِيلًا ﴿١٥٥﴾ وَيَكْفُرُهُمْ وَقَوْلِهِمْ عَلَىٰ مَرْيَمَ بُهْتَنًا
 عَظِيمًا ﴿١٥٦﴾ وَقَوْلِهِمْ إِنَّا قَاتَلْنَا الْمَسِيحَ عِيسَىٰ ابْنَ مَرْيَمَ رَسُولَ
 اللَّهِ وَمَا قَتَلُوهُ وَمَا صَلَبُوهُ وَلَٰكِن سُبِّهَ لَهُمْ وَإِنَّ الَّذِينَ
 اخْتَلَفُوا فِيهِ لَفِي شَكٍّ مِمَّنْ مَا لَهُمْ بِهِ مِنْ عِلْمٍ إِلَّا اتِّبَاعَ الظَّنِّ
 وَمَا قَتَلُوهُ يَقِينًا ﴿١٥٧﴾ بَل رَفَعَهُ اللَّهُ إِلَيْهِ وَكَانَ اللَّهُ عَزِيزًا حَكِيمًا
 ﴿١٥٨﴾ وَإِنَّ مِنَ أَهْلِ الْكِتَابِ إِلَّا لِيُؤْمِنُوا بِهِ قَبْلَ مَوْتِهِ وَيَوْمَ
 الْقِيَامَةِ يَكُونُ عَلَيْهِمْ شَهِيدًا ﴿١٥٩﴾ فَيُظْمَرُ مِنَ الَّذِينَ هَادُوا
 حَرَمْنَا عَلَيْهِمْ طَيْبَاتٍ أُحِلَّتْ لَهُمْ وَبِصَدِّهِمْ عَنْ سَبِيلِ اللَّهِ
 كَبِيرًا ﴿١٦٠﴾ وَأَخَذَهُمُ الرِّبَا وَقَدْ نُهُوا عَنْهُ وَأَكْلَهُمْ آمُورًا
 النَّاسِ بِالْبَطْلِ وَاعْتَدْنَا لِلْكَافِرِينَ مِنْهُمْ عَذَابًا أَلِيمًا ﴿١٦١﴾ لَٰكِن
 الرَّاسِخُونَ فِي الْعِلْمِ مِنْهُمْ وَالْمُؤْمِنُونَ يُؤْمِنُونَ بِمَا أُنزِلَ إِلَيْكَ
 وَمَا أُنزِلَ مِنْ قَبْلِكَ وَالْمُقِيمِينَ الصَّلَاةَ وَالْمُؤْتُونَ الزَّكَاةَ
 وَالْمُؤْمِنُونَ بِاللَّهِ وَالْيَوْمِ الْآخِرِ أُولَٰئِكَ سَنُؤْتِيهِمْ أَجْرًا عَظِيمًا ﴿١٦٢﴾

①55 よってわれらはかれら(ユダヤ教徒)が確かな誓約を破ったせいで、アッラーの印に対する不信仰のせいで、預言者たちを殺すという蛮勇さのせいで、「われわれの心には覆いが被せられているから、あなたが何を言っているかわからない」とムハンマドに言ったせいで、われらの慈悲から追い出した。不信仰のせいでアッラーがかれらの心を閉ざしてしまわれたために良いものは何も届かず、何の役にも立たない少しの信仰でしか信じられないのである。

①56 われらがかれらを慈悲から追い出したのは、その不信仰のせいであり、マルヤムに対して姦淫の罪を根拠なしにでっちあげたせいである。

①57 われらがかれらを呪ったのは、威張りながら嘘を吐いたからである。「わたしたちはマシーフ(メシア)を、アッラーの使徒、マルヤムの子イサーを殺したぞ」と。だがかれらが主張するように本当にかれを殺したわけでもなければ、十字架に磔にしたわけでもなく、かれらが磔にして殺したのはイサーに似せた男だった。それをかれらはイサーと思ひ込んだのだ。かれを殺したと主張するのはユダヤ教徒であり、かれを引き渡したのはキリスト教徒で、どちらも迷っていて確信はない。かれらが従っているのは思い込みで過ぎず、思い込みが真実を超えることはない。かれらは確実にイサーを殺したわけでも、磔にしたわけでもないのである。

①58 むしろアッラーはかれをかれらの策略から救われ、その身体と魂を高みへ上げられたのであった。アッラーはその王国(全世界)において威力並ぶ者のない御方であり、そのご計画、定め、教えにおいて英明な御方である。

①59 やがて啓典の民は皆、終末に降臨して死を迎える前のイサーを信じるだろう。復活の日にはイサーは、シャリーア(イスラームの教え)に則ったものとしてでないものについてかれらの行いの証人となる。

①60 ユダヤ教徒の不義のせいで、元々許されていた美味しい食べ物やわれらはいくつかかれらには禁じた。爪を持つもの全て、荷運びしたことのない牛や羊の脂を禁じた。かれら自身や他の人々をアッラーの道(善行実践)から遮り続けたせいで、善行遮断がかれらの血肉となってしまったほどである。

①61 アッラーがその取り扱いを禁じられた後でなお利子を取り扱うせいで、また違法なかたちで人々の財産を奪うせいで、われらはかれらのうちの不信仰者に痛ましい懲罰を用意した。

こうしてアッラーは啓典の民の中の卑しい者について言及された後、信者について仰せられたのである。

①62 しかしながら使徒や、ユダヤ教徒の中でも知識の確かな者と信者はあなたに下されたクルアーンや以前の使徒たちに下された律法書(トーラー)や福音書(インジール)を信じるだろう。またかれらは礼拝を確立し、財産の一部を施し、アッラーを唯一の神として何もものも並べ立てることなく信じ、復活の日を信じるだろう。そうした特徴を持つ者には偉大な報奨を与えるだろう。

本諸節の功德:

- 不信仰の結末は心を閉ざされることであり、心を閉ざされることは、理解を妨げられるきっかけとなる。
- 殺害を試みるまでに達した、預言者イサーに対するユダヤ教徒の敵対の説明。
- 磔に関するキリスト教徒の無知と迷い、思い込みでその問題を扱っているという事実の説明。
- 知識の徳の説明。啓典の民の中でも確かな知識を持つ者は預言者ムハンマドを信じることへの到達を可能とした。

* إِنَّا أَوْحَيْنَا إِلَيْكَ كَمَا أَوْحَيْنَا إِلَى نُوحٍ وَالنَّبِيِّينَ مِنْ بَعْدِهِ
 وَأَوْحَيْنَا إِلَى إِبْرَاهِيمَ وَإِسْمَاعِيلَ وَإِسْحَاقَ وَيَعْقُوبَ
 وَالْأَسْبَاطِ وَعِيسَى وَأَيُّوبَ وَيُونُسَ وَهَارُونَ وَسُلَيْمَانَ
 وَآتَيْنَا دَاوُدَ رِجْزًا ۗ وَرُسُلًا قَدْ قَصَصْنَاهُمْ عَلَيْكَ
 مِنْ قَبْلُ وَرُسُلًا لَمْ نَقْصُصْهُمْ عَلَيْكَ وَكَلَّمَ اللَّهُ مُوسَى
 تَكْوِيمًا ۗ رُسُلًا مُبَشِّرِينَ وَمُنذِرِينَ لِنَاسٍ لَوْ كَانُوا
 لِلنَّاسِ عَلَى اللَّهِ حُجَّةً بَعْدَ الرُّسُلِ وَكَانَ اللَّهُ عَزِيزًا حَكِيمًا
 ۗ لَئِنْ لَمْ يَنْزَلِ اللَّهُ يَشْهَدُ بِمَا أَنْزَلْنَا إِلَيْكَ أَنْزَلْنَاهُ وَعِلْمِنَاهُ ۗ وَالْمَلَائِكَةُ
 يَشْهَدُونَ وَكَفَى بِاللَّهِ شَهِيدًا ۗ إِنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا
 وَصَدُّوا عَنِ سَبِيلِ اللَّهِ قَدْ ضَلُّوا ضَلَالًا بَعِيدًا ۗ إِنَّ الَّذِينَ
 كَفَرُوا وَظَلَمُوا لَمْ يَكُنِ اللَّهُ لِيَغْفِرْ لَهُمْ وَلَا لِيَهْدِيَهُمْ
 طَرِيقًا ۗ إِلَّا ظَرِيقَ جَهَنَّمَ خَالِدِينَ فِيهَا أَبَدًا وَكَانَ
 ذَلِكَ عَلَى اللَّهِ يَسِيرًا ۗ يَا أَيُّهَا النَّاسُ قَدْ جَاءَكُمْ الرَّسُولُ بِالْحَقِّ
 مِنْ رَبِّكُمْ فَآمِنُوا خَيْرًا لَكُمْ ۗ وَإِنْ تَكْفُرُوا فَإِنَّ لِلَّهِ
 مَا فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَكَانَ اللَّهُ عَلِيمًا حَكِيمًا ۗ

163 使徒よ、以前の預言者たちに啓示を下したようにわれらはあなたに啓示を下した。あなたが使徒という存在を初めて名乗るのではない。われらはヌーフにも啓示を下し、その後の預言者たちにも啓示を下した。われらはイブラーヒームとその二人の息子たち、イスマーイールとイスハークに、イスハークの息子ヤアクーブに、また氏族(訳者注:ヤアクーブの息子たちの12人を祖とするイスラール族の中の諸部族に遣わされた預言者たち)に啓示を下した。そしてわれらはイサーヤやアイユブ、ユームヌスやハールーン、スライマーンにも啓示を下し、ダワードにはザブールの書を与えたのである。

164 われらはクルアーンであなたに物語った何人もの使徒たちを遣わした。何らかの英知のために使徒たちに関する言及を残したのである。アッラーはムーサーへの恩恵として、仲介なしにかれに相応しいかたちで本当に話かけられた。

165 われらがかれらを遣わしたのはアッラーを信じる者へ報奨というよい知らせを伝える者としてであり、かれを信じない者には懲罰という恐ろしい知らせを伝える者としてであった。使徒を遣わした後に言い訳をしようとも、アッラーに対しては言い訳できないようにするためである。アッラーはその王権において威力並びない御方であり、その定めにおいて英明な御方である。

166 たとえユダヤ教徒が信じなくとも、使徒よ、アッラーはあなたに下したクルアーンが正しいものであることを保証される。かれはご自分が何を好み、何に満足し、何を嫌い、何を拒むのかを僕たちに示すべく知識を啓示されたのである。さらに天使があなたのもたらしたものの誠実さをアッラーの証言とともに証言している。証言者はアッラーで十分であり、その証言があれば十分だろう。

167 本当にあなたが預言者であることを信じようとせず、人々をイスラームから妨げようとする者は、真理から遠ざかってしまっている。

168 アッラーとその使徒を信じない者、そして不信仰であり続けることで己を損なってきた者については、意図的にその状態であり続けるかぎりアッラーは赦してくださらないし、その懲罰から救われる道へと導いてもくださらない。

169 永遠に踏みとどまることになる地獄行きの道だけである。それはアッラーにとってはいとも容易いことであり、かれを邪魔することのできる存在はない。

170 人々よ、使徒ムハンマドが至高のアッラーの御許より真理の教えと導きをもたらした。よってかれがもたらしたものを信じなさい。そうすればあなたがたにとってこの世でもあの世でもよくなるだろう。アッラーはあなたがたの信仰を必要としておられるわけではなく、あなたがたの不信仰がかれに害をなすわけでもない。かれには天地にある全てが所有物としてある。アッラーは誰が導きに相応しいかをご存知で、それをその人にとって容易にしてください、誰がそれ(導き)に相応しくないかをご存知で、それをその人に見えなくされる。その御言葉、行い、教え、定めのも全てにおいて英明な御方である。

本諸節の功德:

- ヌーフとイブラーヒーム、そしてその子孫の中の者たちが預言者であること(預言者性:ヌーフ)の確定。アッラーが知る何らかの英知により、中にはアッラーがその知らせを言及された者もあれば、言及しておられない者もいる。
- アッラーに「話す」という性質がかれに相応しいかたちで確かにあるということ。アッラーは確かに預言者ムーサーに話をされたからである。
- アッラーがその天使とともに預言者としての主張の正しさを証言することで、預言者ムハンマドに喜びをもたらししているということ。

يَا أَهْلَ الْكِتَابِ لَا تَغْلُوا فِي دِينِكُمْ وَلَا تَقُولُوا عَلَى اللَّهِ إِلَّا الْحَقَّ إِنَّمَا الْمَسِيحُ عِيسَى ابْنُ مَرْيَمَ رَسُولُ اللَّهِ وَكَلِمَتُهُ أَلْقَاهَا إِلَى مَرْيَمَ وَرُوحٌ مِّنْهُ فَتَمَثَّلُوا بِاللَّهِ وَرُسُلِهِ وَلَا تَقُولُوا ثَلَاثَةً ۚ أَنْتَهُوَ خَيْرٌ لَّكُمْ إِنَّمَا اللَّهُ إِلَهٌُ وَحْدٌ سُبْحَانَهُ ۚ وَأَنْ يَكُونَ لَهُ وَلَدٌ لَهُ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ وَكَفَى بِاللَّهِ وَكِيلًا ﴿٧٦﴾ لَنْ يَسْتَنْكِفَ الْمَسِيحُ أَنْ يَكُونَ عَبْدًا لِلَّهِ وَلَا الْمَلَائِكَةُ الْمُقَرَّبُونَ ۚ وَمَنْ يَسْتَنْكِفْ عَنْ عِبَادَتِهِ وَيَسْتَكْبِرْ فَسَيَحْشُرْهُمْ إِلَيْهِ جَمِيعًا ﴿٧٧﴾ فَأَمَّا الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ فَيُوَفِّيهِمْ أُجُورَهُمْ وَيَزِيدُهُمْ مِنْ فَضْلِهِ ۚ وَأَمَّا الَّذِينَ اسْتَنكَفُوا وَاسْتَكْبَرُوا فَيَعَذِّبُهُمْ عَذَابًا أَلِيمًا وَلَا يَجِدُونَ لَهُمْ مِنْ دُونِ اللَّهِ وَلِيًّا وَلَا نَصِيرًا ﴿٧٨﴾ يَا أَيُّهَا النَّاسُ قَدْ جَاءَكُمْ بُرْهَانٌ مِّن رَّبِّكُمْ وَأَنْزَلْنَا إِلَيْكُمْ نُورًا مُّبِينًا ﴿٧٩﴾ فَأَمَّا الَّذِينَ ءَامَنُوا بِاللَّهِ وَأَعْتَصَمُوا بِهِ فَسَيُدْخِلُهُمْ فِي رَحْمَةٍ مِّنْهُ وَفَضْلٍ وَيَهْدِيهِمْ إِلَى صِرَاطٍ مُسْتَقِيمًا ﴿٨٠﴾

①74 使徒よ、福音書の民であるキリスト教徒に言いなさい。「あなたがたの宗教における一線を越えないください。イーサーについて、真実以外のことをアッラーに対して言わないください。」メシアであるマルヤムの息子イーサーは、真理とともにアッラーが遣わした使徒であり、かれがマルヤムのもとにジブリール(大天使ガブリエル)を遣わしたその御言葉によって創造された存在である。その言葉とは、「あれ」というものであり、するとすなわちあったのである。それはアッラーからの息吹きであり、アッラーのご命令のもとにジブリールが吹きかけたのであった。だからアッラーを信じ、区別せずその使徒たちを信じなさい。「神は三位」と言ってはならない。でたらめなこの言葉はもうやめよ。それをやめることが、この世とあの世での幸せとなるだろう。アッラーは唯一の神であり、パートナーなどいなければ、子供もいない。何もものも必要としない満ち足りた御方なのである。かれにこそ天地にある全ては属すのであり、天地を維持し、司るのはアッラーで充分である。

①75 マルヤムの息子イーサーは、アッラーの僕であることを嫌がったり、拒んだりはしない。天使もそうである。かれはかれらの地位を高められ、アッラーの僕とされた。それなのにいかにしてあなたがたはイーサーを神とするのか。多神教徒はいかにして天使たちを神々とするのか。アッラーにお仕えすることを嫌がり、傲慢にそれを拒む者も、アッラーは復活の日に全ての存在を一同に集め、それぞれに相応しいかたちで報いられるのである。そうして全ての存在がアッラーのもとへ集められるのを明らかにされ、かれらの報いを詳しく仰せられた。

①76 アッラーとその使徒たちを信じ、定められたやり方でアッラーのために誠実に善行を実践する者には、行いの報奨を欠けることなく与えてくださり、その徳によりさらに増やしてくださるだろう。一方、アッラーを崇めてかれに従うことを嫌がり、傲慢に拒む者は、痛ましい懲罰を与えられるだろう。アッラーの他に面倒を見てくださり、利益

を与えてくれ、助けてくれる存在も見つからないだろう。

①74 人々よ、言い訳の余地を残さず、疑念を払いのける明らかな証、すなわちムハンマドがやって来た。そして明らかな光、すなわちこのクルアーンを下したのである。

①75 アッラーを信じ、預言者へ下されたクルアーンを拠り所とする者は、アッラーが天国入りの慈悲をかけてくださる。報奨も増し、位階も高めてくださり、まっすぐな道を行けるよう成功させてくださるだろう。それこそがアドン(エデン)の楽園へと続く道なのである。

本諸節の功德:

- マスィーフ(メシア)も人間であるということ。その母親も同じである。ところがキリスト教徒の中で極端に走ってしまった者は、二人を人間の枠から出してしまった。
- キリスト教徒の中でも三位一体を説く人は多神教の虚偽にあり、アッラーに相棒やそっくりな存在、近い存在はない。至高のアッラーの唯一性は、本質、名称、特徴において独立しているのである。
- イーサー(イエス)と天使たちは皆造られた僕たちであり、至高のアッラーの僕であることを傲慢に認めないということではなく、かれのご命令に従わないということはない。ならばいかにしてアッラーの僕であるかれらを神とみなし得ようか。
- 宗教(イスラーム)には、疑念を払いのける理知的な論拠があり、ためらいや我欲を打ち払う光や導きがある。

①76 使徒よ、かれらは尋ねるだろう。父親や息子といった男の遺族なしに亡くなった者の遺産相続についての回答を。言いなさい。「アッラーがその規定を明らかにしてください。もしある人が父親や息子なしに亡くなり、実の姉妹、あるいは母親の違う姉妹があれば、彼女には遺産の半分がファルド(義務としての遺産配当)としてある。実の兄弟、あるいは母親の違う兄弟があれば、相続が義務となる者が他にいなければ遺産の半分がタアスィーブ(残った分の遺産配当)としてある。ともに相続が義務となる者があれば、その者が取り分を得た後の残りを相続する。実の姉妹または母親の違う姉妹が何人かいる場合、例えば二人以上の場合、3分の1をファルドとして相続する。実の兄弟または母親の違う兄弟に男子と女子がいる場合、タアスィーブで「男子には女子二人分の取り分あり」の原則に従って相続する。つまり、男子の取り分が女子の二倍とされるわけである。アッラーは迷わないようにあなたがたのために親も子も遺族にいない人やその他の遺産相続規定を明らかにされる。アッラーは全てをご存知であり、不明瞭なことなど何もない。

5. 食卓章(アル・マイダ)

マディーナ啓示

本章の趣旨:

契約遵守の命令、啓典の民の契約違反を真似ることへの警告。

① 信者よ、あなたがたと創造主、あなたがたとかれの造物物の間の契約を全うせよ。アッラーはあなたがたへの慈悲としてラクダや牛や羊といった家畜を食べることを許可された。禁止の啓示が下されたもの、大巡礼や小巡礼で巡礼着を纏った状態での陸地での狩猟禁止を除いてはである。アッラーはお望みのままに英知に応じて許可し、禁止する御方であり、かれを無理強いすることのできる存在も、その定めに反対できる存在もない。

② 信者よ、アッラーの禁忌事項を勝手に許されたものとしてはならない。巡礼着を纏って禁忌状態になってから、縫い目のあるものを着ること、狩りのようにハラム(禁忌のある地)での禁止事項といった警告喚起事項にも手を出してはならない。また、禁忌のある月々、すなわちズルカアダ月(11月)、ズルヒジャ月(12月)、アルムハラム月(1月)、ラジャブ月(7月)における殺害を許可してはならない。また、禁忌のある地へアッラーへの犠牲として捧げられたものを横領したり、あるべき場所までの運搬を邪魔立てしたりすることを許可してはならない。また、供物の印として羊毛などの首輪をつけた動物を許可してはならない。また、アッラーのご満悦を求め、貿易の利益を求めて、禁忌のあるアッラーの館(カアバ殿)を目指す者たち(の血や財産、名誉を奪うこと)を許可してはならない。よって大巡礼または小巡礼の(行程を終え)巡礼着を纏った禁忌状態から脱し、禁忌のある地から出たならば、望むならば狩りをするがよい。禁忌のあるマズジド(礼拝所)に入るのを邪魔立てした者たちに対し、不義を働いてはならない。むしろ信者よ、命じられたことを実践し、禁じられたことをやめる上でお互いに協力し合うのだ。罪を負う違反や他者の命や財産、名誉を傷付けるような敵対行為でお互いに協力し合ってはならない。かれに忠実にお仕えし、違反から遠ざかることでアッラーを畏れよ。アッラーは背く者に対しては懲罰の厳しい御方である。だからかれの懲罰をこうむらないで済むよう十二分に注意せよ。

本諸節の功德:

- 遺産の分配における、全ての遺族のためのアッラーのご配慮。
- 基本は、家畜の肉は全て許されているということ。禁止の典拠によって特別な定めもたらされたり、大巡礼や小巡礼に臨む巡礼者が狩りの対象としたりするのを除く。
- 禁忌事項を勝手に許可することの禁止。例えば、巡礼者にとっての禁忌事項、禁忌のある土地での狩猟、禁忌のある月々における殺害、供物の横領や運搬の妨害を許可すること。

يَسْتَفْتُونَكَ قُلِ اللَّهُ يُفْتِيكُمْ فِي الْكَلَالَةِ إِنِ امْرُؤٌ هَلَكَ لَيْسَ لَهُ وَوَلَدٌ لَهُ وَوَلَدٌ لَهُ أُخْتُ فَلَهَا نِصْفُ مَا تَرَكَ وَهُوَ يَرِثُهَا إِنْ لَمْ يَكُنْ لَهَا وَلَدٌ فَإِنْ كَانَتَا اثْنَتَيْنِ فَلَهُمَا الثُّلُثَانِ مِمَّا تَرَكَ وَإِنْ كَانُوا إِخْوَةً رِجَالًا وَنِسَاءً فَلِلَّذَكَرِ مِثْلُ حَظِّ الْأُنثِيَيْنِ يُبَيِّنُ اللَّهُ لَكُمْ أَنْ تَضِلُّوا وَاللَّهُ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمٌ ①76

سُورَةُ الْمَائِدَةِ آيَاتُهَا ١٠٣ نَبِيَّهَا

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا أَوْفُوا بِالْعُقُودِ أُحِلَّتْ لَكُمْ بَهِيمَةُ الْأَنْعَامِ إِلَّا مَا يُبْتِغَىٰ عَلَيْكُمْ غَيْرَ مُحِلِّي الصَّيْدِ وَأَنْتُمْ حُرْمٌ إِنَّ اللَّهَ يَحْكُمُ مَا يُرِيدُ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا لَا تَحِلُّوا شَعَائِرَ اللَّهِ وَلَا الشُّهُرَ الْحَرَامَ وَلَا الْهَدْيَ وَلَا الْقَلَائِدَ وَلَا آيَاتِ الْبَيْتِ الْحَرَامِ يَبْتَغُونَ فَضْلًا مِّن رَّبِّهِمْ وَرِضْوَانًا وَإِذَا حَلَلْتُمْ فَاصْطَادُوا وَلَا يَجْرِمَنَّكُمْ شَنَا نُ قَوْمٍ أَن صَدُّوكُمْ عَنِ الْمَسْجِدِ الْحَرَامِ أَنْ تَعْتَدُوا وَتَعَاوَنُوا عَلَى الْبِرِّ وَالتَّقْوَىٰ وَلَا تَعَاوَنُوا عَلَى الْإِثْمِ وَالْعُدْوَانِ وَاتَّقُوا اللَّهَ إِنَّ اللَّهَ شَدِيدُ الْعِقَابِ ①

حُرِّمَتْ عَلَيْكُمْ الْمَيْتَةُ وَالْدَّمُ وَلَحْمُ الْخَنزِيرِ وَمَا أَهْلَ لِغَيْرِ اللَّهِ بِهِ
وَالْمُنْخَفَقَةُ وَالْمَوْفُودَةُ وَالْمُتَرَدِّيَةُ وَالنَّطِيحَةُ وَمَا أَكَلَ
السَّبُعُ إِلَّا مَا ذَكَّيْتُمْ وَمَا ذُبِحَ عَلَى النُّصُبِ وَأَنْ تَسْتَقْسِمُوا
بِالْأَزْوَاجِ ذِكْرُكُمْ فَسَقُّوا الْيَوْمَ يَبْسُ الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ دِينِكُمْ فَلَا
تَخْشَوْهُمْ وَاخْشَوْنَ أَيُّومًا كَمَلَتْ لَكُمْ دِينُكُمْ وَأَتَمَمْتُمْ عَلَيْكُمْ
نِعْمَتِي وَرَضِيتُ لَكُمْ الْإِسْلَامَ دِينًا فَمَنِ اضْطُرَّ فِي مَخْمَصَةٍ
غَيْرِ مِتْجَانِفٍ لِإِثْمٍ فَإِنَّ اللَّهَ عَفُورٌ رَحِيمٌ ﴿٣﴾ بَسْ لَوْ نَشَاءُ
أُحِلَّ لَكُمْ قُلُوبُ الْحَيَّاتِ وَمَا عَلَّمْتُمُ مِنَ الْجَوَارِحِ
مُكَلِّبِينَ تَعْلَمُونَهُنَّ مِمَّا عَلَّمَكُمُ اللَّهُ فَكُلُوا مِمَّا أَمْسَكْنَ عَلَيْكُمْ
وَأَذْكُرُوا اسْمَ اللَّهِ عَلَيْهِ وَاتَّقُوا اللَّهَ إِنَّ اللَّهَ سَرِيعُ الْحِسَابِ ﴿٤﴾
أَيُّومًا أُحِلَّ لَكُمْ الطَّيِّبَاتُ وَطَعَامُ الَّذِينَ أُوتُوا الْكِتَابَ حَلَلٌ لَكُمْ
وَطَعَامُكُمْ حَلَلٌ لَهُمْ وَالْمُحْصَنَاتُ مِنَ الْمُؤْمِنَاتِ وَالْمُحْصَنَاتُ
مِنَ الَّذِينَ أُوتُوا الْكِتَابَ مِنْ قَبْلِكُمْ إِذَا آتَيْتُمُوهُنَّ أَجْرَهُنَّ
مُحْصِنِينَ غَيْرِ مُسَفِّحِينَ وَلَا مَتَّخِذِي أَخْدَانٍ وَمَنْ يَكْفُرْ
بِالْإِيمَانِ فَقَدْ حَبِطَ عَمَلُهُ وَهُوَ فِي الْآخِرَةِ مِنَ الْخَاسِرِينَ ﴿٥﴾

③ 浄めなしに死んだ動物(の肉を食べること)をアッラーはあなた方に禁じられた。流血や豚肉、屠殺の際にアッラー以外の名が唱えられたものも禁じられた。絞殺されたもの、撲殺されたもの、高所から落下して死んだもの、突き殺されたもの、ライオンや虎、狼などの猛獣にかみ殺されたものは、死ぬ前に浄めることができたものはハラール(許されたもの)となるがそれ以外は禁じられている。また、偶像のために屠殺されたものも禁じられた。また、石や矢に「～をしる」「～をする」と記されたもので知らないうちにしとめられたもの(訳者注:石や矢に記されたことを偶像神の導きとして聞き従っていたイスラーム以前の風習によってしとめられたもの)も禁じられた。こうした禁じられた行いをするのは、アッラーへの忠誠から外れてしまうことを意味する。今日、不信仰者はあなた方がイスラームの教えから離れ去ることはないし絶望するに至った。だからかれらを恐れるのではなく、**われ**だけを恐れよ。今日、**われ**はあなた方のために宗教すなわちイスラームを完成させた。そして内面的かつ外面的な**われ**の恩恵を完了させ、イスラームをあなた方のための宗教として選んだのである。よってほかの宗教を**われ**が受け入れることはない。空腹のあまり、罪を犯そうとしてではなく、死肉を食べずにはいられなかったときには、罪はない。まことにアッラーはよく赦してください、慈悲深い御方である。

アッラーは食べるのが禁じられたものを言及された後で、許されたものを述べておられる。

④ 使徒よ、あなたの直弟子たちがアッラーは何を食べるとよいとされたのかを尋ねるだろう。使徒よ、言いなさい。アッラーはあなたがたのために良いものを許してください。猟犬や豹(ひょう)のように牙を持ち、鷹のように嘴(くちばし)を持つ、狩りの知識や礼節を調教し、命令に応じて啞(くわ)えたり放したりできる訓練を受けた動物に狩られたものは食べてもよい。よってこれらの動物が捕まえたものは、アッラーの御名を唱えて解き放せば、たとえ狩りに殺してしまったとしても、狩りで仕留められた

動物の肉を食べてもよい。アッラーを畏れ、そのご命令を守り、禁じられたことを選びよ。まことにアッラーは行いの清算に迅速な御方である。

⑤ 今日、アッラーはあなたがたのために美味しいもの、ユダヤ教徒やキリスト教徒が屠殺した肉を許してくださった。あなたがたの屠殺した肉もかれらのために許された。また、マハル(婚資金)を払えば、あなたがたのために信者の自由人で貞淑な女性との結婚、ユダヤ教徒やキリスト教徒といった以前に天啓の書を授けられた者の自由人で貞淑な女性との結婚を許された。あなたがたは淫らな罪を犯すことなく、不倫相手を得ることもなく、辛抱強く耐えてきた。アッラーが僕たちのために様々な規定を定められたことを拒む者は、行いが受け入れられる条件である信仰を失うことで、自分の行いを無効にしてしまうことになる。復活の日には地獄の業火に入れられ、永遠にそこにいる損失者の一人となってしまふのである。

本諸節の功德:

- 浄めなしに死んだ動物の肉の禁止。流血や豚肉、屠殺の際にアッラー以外の名が唱えられたものも禁じられた。絞殺されたもの、撲殺されたもの、高所から落下して死んだもの、突き殺されたもの、ライオンや虎、狼などの猛獣にかみ殺されたものは、死ぬ前に浄めることができたものを除いて禁じられる。
- 牙や嘴(くちばし)を持つ、訓練された狩猟動物が仕留めたものは許されている。
- 啓典の民に屠殺された肉は許されている。貞淑な自由人女性との結婚も許されている。

⑥ 信者よ、礼拝を捧げたいと思い、小さな穢れの状態にあったなら、顔を洗い、頭を濡れた手でなで、両手を肘まで洗い、両足を踝まで洗うウドゥー(浄め)をせよ。大きな穢れの状態にあったなら、沐浴(グスル)をしてからにせよ。だがもし病気で、(水の使用が)病気の増大や治療の遅延になることを心配するなら、あるいは健康な状態で旅行中であったなら、あるいは例えば用を足して小さな穢れの状態にあったなら、あるいは妻との性交で大きな穢れの状態にあったなら、浄めのための水を探してもなお見つからなかった場合には、大地の表面を目指し、両手を打ちつけて、それで顔をなで、両手をなでよ。アッラーはその規定において、水の使用を必要不可欠とすることであなたがたを害してしまうような、窮屈な思いをさせることを望まれない。だから**かれ**はあなたがたへの恩恵を完遂するためにも、病気や水がないといった事情があるときに代わりの規定を定められたのである。あなたがたがアッラーの恩恵を拒むのではなく、感謝するためである。

⑦ イスラームへの導きというアッラーの恩恵を思い起こすがよい。病める時も健やかな時も「あなたの言葉をよく聞き、あなたの命令によく従います」と預言者に約束したときの誓約を思い起こせ。アッラーのご命令を果たすことでアッラーを畏れよ。そのうちの一つが、**かれ**の誓約を守り、禁止事項を避けることである。まことにアッラーは心中を知っておられ、**かれ**にとって不明瞭なことなど何もない。

⑧ アッラーとその使徒を信仰する者よ、アッラーのご満悦を求めてその権利を實踐する者であれ。不平ではなく、正義の証人となれ。ある民への憎悪で公平さを失ってはならない。公平さは、友とであれ、敵とであれ求められるものだからである。だから両者ともに公平にせよ。公平さはアッラーへの恐れにより近く、不公平さはかれへの冒瀆により近いのである。そのご命令を守り、禁止を避けることでアッラーを畏れよ。まことにアッラーはあなたがたの行うことを熟知しておられる。**かれ**にとって不明瞭なことなど何もなく、行いに応じて報いられるのである。

⑨ 約束を違えることのないアッラーは、アッラーとその使徒たちを信じ、善行を行う者に罪の赦しと天国入りという偉大な報奨を約束された。

本諸節の功德:

- タハラ(浄め)の基本は、小さな穢れからは水を使ったウドゥー(水による限定的な浄め)であり、大きな穢れからはグスル(沐浴)である。
- 水を入手しづらい場合、あるいは病気等で水が使えない場合は、土によるタヤムム(土による浄め)が容認され、大小の穢れを取り除く規定がある。
- 相違のある者との接し方においてであれ、公平さを優先し、不公平さを避けるべきというのが(アッラーの)ご命令である。

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا إِذَا قُمْتُمْ إِلَى الصَّلَاةِ فَاغْسِلُوا
وُجُوهَكُمْ وَأَيْدِيَكُمْ إِلَى الْمَرَافِقِ وَامْسَحُوا بِرُءُوسِكُمْ
وَأَرْجُلَكُمْ إِلَى الْكَعْبَيْنِ وَإِنْ كُنْتُمْ جُنُبًا فَاطَّهَّرُوا
وَإِنْ كُنْتُمْ مَرْضَىٰ أَوْ عَلَىٰ سَفَرٍ أَوْ جَاءَ أَحَدٌ مِنْكُمْ مِنَ
الْعَائِطِ أَوْ لَمَسْتُمُ النِّسَاءَ فَلَمْ تَجِدُوا مَاءً فَتَيَمَّمُوا صَعِيدًا
طَيِّبًا فَامْسَحُوا بِوُجُوهِكُمْ وَأَيْدِيكُمْ مِنْهُ مَا يُرِيدُ اللَّهُ
لِيَجْعَلَ عَلَيْكُمْ مِنْ حَرَجٍ وَلَا يَكُنْ بِرُءُوسِكُمْ
وَلَيْتِمَّ نِعْمَتَهُ عَلَيْكُمْ لَعَلَّكُمْ تَشْكُرُونَ
وَأَذْكُرُوا نِعْمَةَ اللَّهِ عَلَيْكُمْ وَمِيثَاقَهُ الَّذِي وَاثَقَكُمْ
بِهِ إِذْ قُلْتُمْ سَمِعْنَا وَأَطَعْنَا وَأَتَقُوا اللَّهَ إِنَّ اللَّهَ عَلَيْهِ
يَدَاتُ الصُّدُورِ ۝٧ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا كُونُوا قَوِّمِينَ
لِلَّهِ شُهَدَاءَ بِالْقِسْطِ وَلَا يَجْرِمَنَّكُمْ شَنَا نُ قَوْمٍ عَلَى
الْأَعْدَاءِ لَوْ أَعْدِلُوا هُوَ أَقْرَبُ لِلتَّقْوَىٰ وَاتَّقُوا اللَّهَ إِنَّ
اللَّهَ خَبِيرٌ بِمَا تَعْمَلُونَ ۝٨ وَعَدَّ اللَّهُ الَّذِينَ آمَنُوا
وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ لَهُمْ مَغْفِرَةٌ وَأَجْرٌ عَظِيمٌ ۝٩

وَالَّذِينَ كَفَرُوا وَكَذَّبُوا بِآيَاتِنَا أُولَٰئِكَ أَصْحَابُ
 الْجَحِيمِ ﴿١٠٩﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا أَذْكُرُوا نِعْمَتَ
 اللَّهِ عَلَيْكُمْ إِذْ هُمْ قَوْمٌ ءَانِسٌ طُؤَالِ الْيَمِّ كَرَّ أَيْدِيَهُمْ
 فَكَفَّ أَيْدِيَهُمْ عَنْكُمْ وَاتَّقُوا اللَّهَ وَعَلَى اللَّهِ فَلْيَتَوَكَّلِ
 الْمُؤْمِنُونَ ﴿١١٠﴾ * وَلَقَدْ أَخَذَ اللَّهُ مِيثَاقَ بَنِي إِسْرَائِيلَ
 وَوَعَىٰ نَامُهُمْ أَتَخَفَ عَشْرَ نَفِيًّا وَقَالَ اللَّهُ إِنِّي
 مَعَكُمْ لَئِنْ أَقَمْتُمُ الصَّلَاةَ وَءَاتَيْتُمُ الزَّكَاةَ
 وَءَامَنْتُمْ بِرُسُلِي وَعَزَّرْتُمُوهُمْ وَأَقْرَضْتُمُ اللَّهَ قَرْضًا
 حَسَنًا لَأُكَفِّرَنَّ عَنْكُمْ سَيِّئَاتِكُمْ وَلَأُدْخِلَنَّكُمْ
 جَنَّاتٍ تَجْرِي مِن تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ فَمَن كَفَرَ بَعْدَ ذَٰلِكَ
 مِنكُمْ فَقَدْ ضَلَّ سَوَاءَ السَّبِيلِ ﴿١١١﴾ فِيمَا نَقَضْتُمُ
 مِيثَاقَهُمْ لَعَنَّاهُمْ وَجَعَلْنَا قُلُوبَهُمْ قَلْسِيَةً يُحَرِّفُونَ
 الْكَلِمَ عَن مَّوَاضِعِهَا وَتَسَوَّأْتَ مَا ذُكِّرُوا
 بِهِ وَلَا تَنزَالَ تَطَّلِعُ عَلَى خَائِنَةٍ مِّنْهُمْ إِلَّا قَلِيلًا مِّنْهُمْ
 فَاعْفُ عَنْهُمْ وَأَصْفَحْ إِنَّا لِلَّهِ يُحِبُّ الْمُحْسِنِينَ ﴿١١٢﴾

が誠意を尽くすことである。アッラーは最善を尽くす者を好まれる。

本諸節の功德:

- 預言者とその直弟子サハーバへのアッラーの偉大な恩恵の一つは、不信仰の民の嫌がらせを押し止め、危害が加えられないよう守ってくださったことである。
- 使徒たちを信じて助け、礼拝を確立し、求められた形で施しを支払うことは、アッラーのご臨在を得て、支援と達成、容赦と天国入り実現を得る大きなきっかけとなる。
- 使徒たちへの忠誠を約束した誓約の違反は、心を硬直させ、根性悪にする原因である。
- アッラーが啓示された天啓の書を改竄(かいざん)したことへのユダヤ教徒のやり方非難。

⑩ アッラーを信じようとせず、かれの印を嘘と否定する者は、その不信仰と嘘への懲罰として入れられる地獄の業火の住人となり、友が連れ合いと一緒にいるように炎と共にいることになる。

⑪ 信者よ、心と口でアッラーがもたらしてくれた安全と敵の心に恐怖を投げ込むという恩恵を思い起こすがよい。かれらはあなたがたを陥れようと近付いたが、アッラーがかれらを遠ざけ、あなたがたを守ってくださった。よってそのご命令を守り、禁止を避けることでアッラーを畏れよ。信者は宗教的かつ世俗的な利益を得るうえで、アッラーただお独りを頼みとすべきである。

⑫ やがて言及されるイスラエルの子孫に対し、アッラーは確かな誓約を結ばれた。12人の頭領を置き、全ての頭領がその配下の者の後見役となるというわけである。アッラーはイスラエルの子孫に仰せられた。「われはあなたがたが完全な形で礼拝を捧げ、財産の一部を施し、区別することなくわれの使徒たち全員を信じ、かれらを尊敬して支援し、様々な善行において財産を費やしたなら、あなたがたへの支援であなたがたに共であろう。もしあなたがたがそれら全てを果したならば、犯した悪行をわれは償い、復活の日には楽園に入れてやろう。よってこの確かな誓約を結んだ後で不信仰に陥る者は、知りながら故意に真理の道を踏み外したのと同然である。」

⑬ 誓約違反のせいでわれらの慈悲からかれらを追い出し、その心を頑なで根性の悪いものに変えた。かれらは文言を入れ替えて言葉を改竄(かいざん)し、自分たちの好みに応じた解釈をし、記憶を喚起された幾つもの行いを放棄したのである。そして未だに、使徒よ、あなたはかれらがアッラーとその僕たちに対して裏切り行為を働いているのを見出すだろう。ただただ、誓約を忠実に守るほんの少数の者だけは別である。かれらは赦してやり、責め立ててはならない。大目に見てやるがよい。それこそ

وَمِنَ الَّذِينَ قَالُوا إِنَّا نَصْرِي أَخَذْنَا مِيثَاقَهُمْ فَنَسُوا حَظًّا مِمَّا ذُكِّرُوا بِهِ فَأَغْرَيْنَا بَيْنَهُمُ الْعَدَاوَةَ وَالْبَغْضَاءَ إِلَى يَوْمِ الْقِيَامَةِ وَسَوْفَ يُنَبِّئُهُمُ اللَّهُ بِمَا كَانُوا يَصْنَعُونَ ﴿١٥﴾ يَا أَهْلَ الْكِتَابِ قَدْ جَاءَكُمْ رَسُولُنَا يُبَيِّنُ لَكُمْ كَثِيرًا مِمَّا كُنْتُمْ تُخْفُونَ مِنَ الْكِتَابِ وَيَعْفُو عَنْ كَثِيرٍ قَدْ جَاءَكُمْ مِنَ اللَّهِ نُورٌ وَكِتَابٌ مُبِينٌ ﴿١٦﴾ يَهْدِي بِهِ اللَّهُ مَنِ اتَّبَعَ رِضْوَانَهُ سُبُلَ السَّلَامِ وَيُخْرِجُهُم مِنَ الظُّلُمَاتِ إِلَى النُّورِ بِإِذْنِهِ وَيَهْدِيهِمْ إِلَى صِرَاطٍ مُسْتَقِيمٍ ﴿١٧﴾ لَقَدْ كَفَرَ الَّذِينَ قَالُوا إِنَّ اللَّهَ هُوَ الْمَسِيحُ ابْنُ مَرْيَمَ قُلْ فَمَنْ يَمْلِكُ مِنَ اللَّهِ شَيْئًا إِنْ أَرَادَ أَنْ يُهْلِكَ الْمَسِيحُ ابْنُ مَرْيَمَ وَأُمَّهُ وَمَنْ فِي الْأَرْضِ جَمِيعًا وَلِلَّهِ مُلْكُ السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا يُخَلِّقُ مَا يَشَاءُ وَاللَّهُ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿١٧﴾

14 われらがユダヤ教徒と確かな誓約を結んだように、イーサーの信奉者として自分たちのことを敬虔な者とみなす者とも誓約を結んだが、かれらはユダヤ教徒であるかれらの先祖たちがしたように記憶を喚起されたものうちの一部を放棄した。われらが復活の日に至るまで、かれら両者(ユダヤ教徒とキリスト教徒)の間に諍(いさか)いや激しい憎悪を植え付けたため、お互いに信仰を否定し合う殺し合いをするようになった。アッラーはかれらがしていたことを伝え、それに報いを与えられよう。アッラーは啓典の民とかれらとの誓約、かれらの誓約違反を言及され、かれらに対してムハンマドを信じるように命じられ、仰せられた。

15 律法書を持つユダヤ教徒と福音書を持つキリスト教徒の啓典の民よ、われらの使徒ムハンマドがやって来てあなたがたに啓示された書のうち、あなたがたが隠した多くのことを明らかにするだろう。あなたがたの醜態を曝け出すだけで何のためにもならないものの多くはお咎めなしとするだろう。あなたがたのもとにはアッラーの御許から下された書としてクルアーンがもたらされた。それは光明となる光であり、人々がこの世とあの世で必要とするもの全てを明らかにする書である。

16 アッラーは信仰と善行にかれが満足する形で従う者を、この書を通してアッラーの懲罰から無事でいられる道へと導かれる。それは天国へと通じる道であり、不信仰の闇から信仰の光へと救い出してくれ、まっすぐなイスラームの道へと導いてくれるのである。

17 キリスト教徒でアッラーはすなわちマルヤムの子イーサーであると言う者は不信仰に陥った。かれらに言いなさい、使徒よ。「マシーフ(メシア)たるマルヤムの子イーサーとその母親、かつ地上の全てのものを、お望みとあればアッラーが消滅させるのを妨げることのできる存在があるだろうか。もし誰もできないならば、それがかれのほかに神はいないこと、そしてマルヤムの子イーサーとその母親も地上の全てのものもアッラーの被造物であることの証である。アッラーにこそ天地にあるもの全ての王権はあり、お望みのものを創造され、実際に創造を望まれた存在の中にイーサーもおり、かれはかれの僕であり使徒である。アッラーは全能なる御方である。

本諸節の功德:

- アッラーの誓約実践を放棄することは、違反した者たちの中で敵対や憎悪の蔓延、不当な競争、殺し合いのきっかけとなる。
- アッラーがメシアの肉体に顕現したというキリスト教徒の主張への反論およびかれらの不信仰と妄言の説明。
- メシアの神性が嘘偽りであることの証拠の一つは、もしアッラーがメシアとその母親(二人に平安あれ)、地上にいる全ての人を滅ぼそうとしても、誰一人として反対することはできないということ。これはかれだけが命を下すことができ、かれのほかに神はいないことを確認するものである。
- メシアの神性が嘘偽りであることの証拠の一つは、かれが『お望みのものを創造される。』(食卓章17節)という事実を想起させていること。かれは父と母から創造することもあれば、イーサーのように父親なしで母親から創造することもあり、ムーサーの蛇のように鉾物から創造することもあれば、アーダムからのハウワウのように女なしに男から創造することもある。

قَالُوا يَمْوَسَىٰ إِنَّا لَن نَّدْخُلُهَا أَبَدًا مَا دَامُوا فِيهَا فَاذْهَبْ
 أَنْتَ وَرَبُّكَ فَقَتِلَا إِنَّا هُنَا قَاعِدُونَ ﴿٤٤﴾ قَالَ رَبِّ إِنِّي
 لَا أَمْلِكُ إِلَّا نَفْسِي وَأَخِي فَافْرُقْ بَيْنَنَا وَبَيْنَ الْقَوْمِ
 الْفَاسِقِينَ ﴿٤٥﴾ قَالَ فَإِنَّهَا مُحَرَّمَةٌ عَلَيْهِمْ أَرْبَعِينَ سَنَةً
 يَتِيهُونَ فِي الْأَرْضِ فَلَا تَأْسَ عَلَى الْقَوْمِ الْفَاسِقِينَ
 ﴿٤٦﴾ * وَأَتْلُ عَلَيْهِمْ نَبَأَ ابْنَيْ آدَمَ بِالْحَقِّ إِذْ قَرَّبَا بَانَ فَتَقَبَّلَ
 مِنْ أَحَدِهِمَا وَلَمْ يُتَقَبَّلْ مِنَ الْآخَرَ قَالَ لَاقْتُلْنَاكَ
 قَالَ إِنَّمَا تَتَّقَلُّ اللَّهُ مِنَ الْمُتَّقِينَ ﴿٤٧﴾ لَئِن سَطَّتِ إِلَيَّ يَدُكَ
 لَتَقْتُلَنِي مَا أَنَا بِسَاطِطٍ يَدِي إِلَيْكَ لِأَقْتُلَكَ إِنِّي أَخَافُ اللَّهَ
 رَبَّ الْعَالَمِينَ ﴿٤٨﴾ إِنِّي أُرِيدُ أَنْ تَبُوءَ بِإِثْمِي وَإِثْمِكَ فَتَكُونَ
 مِن أَصْحَابِ النَّارِ وَذَلِكَ جَزَاءُ الظَّالِمِينَ ﴿٤٩﴾ فَطَوَّعَتْ
 لَهُ وَنَفْسُهُ وَقَتَلَ أَخِيهِ فَقَتَلَهُ وَفَاصْبَحَ مِنَ الْخَاسِرِينَ ﴿٥٠﴾
 فَبَعَثَ اللَّهُ غُرَابًا يَبْحَثُ فِي الْأَرْضِ لِيُرِيَهُ وَكَيْفَ يُورِي
 سَوْءَةَ أَخِيهِ قَالَ يُورِيَّتِي أَعْجَزْتُ أَنْ أَكُونَ مِثْلَ هَذَا
 الْغُرَابِ فَأُورِي سَوْءَةَ أَخِي فَاصْبَحَ مِنَ التَّائِمِينَ ﴿٥١﴾

الجزء
١٢

24 イスラールの子孫のうちムーサーの民は自分たちの預言者ムーサーの命令にわざと背きながら言った。「圧政者たちがわたしたちの中に入らない。だからムーサーよ、あなたとあなたの主が二人で圧政者と戦ってくれ。わたしたちはここに残って持ち場に留まり、あなたがた二人と戦うつもりはない。」

25 ムーサーは主に言った。「主よ、わたしは自分自身と兄弟のハールーンの他には誰に対してもどうにもできません。ですからあなたとあなたの使徒への忠誠背いた民とわたしたちの間を切り離してください。」

26 アッラーは預言者ムーサーに仰せられた。「まことにアッラーはイスラールの子孫が聖なる地に入るのを40年間の禁じられた。その間かれらは砂漠の中を、導かれることもなくさまよい続けたのである。だからムーサーよ、アッラーへの忠誠から背く民に対して残念がるではない。かれらがこうむる苦しみは、自分たちの違反と罪のせいなのである。」

27 物語るがよい、使徒よ。ユダヤ教徒の中でも嫉妬深く不義な者に、アダムの子の息子ハービールとカービールの知らせを物語るがよい。それぞれが至高のアッラーに近づくべく犠牲を捧げたが、アッラーは敬虔な者であるハービールの犠牲を受け入れ、敬虔ではないカービールの犠牲を受け入れなかった。カービールはハービールの犠牲が受け入れられたのを嫉妬して否定し、「ハービールめ、殺してやる」と言い、「アッラーが受け入れる犠牲はかれのご命令を守り、禁じられたものを避けることでアッラーを畏れる者の犠牲である」とハービールは言った。

28 「もしあなたが自分の手を伸ばしてわたしを殺そうとしても、わたしはあなたのすることで仕返しをしようとは思わない。それはわたしが臆病だからではなく、あらゆる被造物の主アッラーを畏れるからだ。」

29 かれ(カービール)は恐れながら言った。「わたしを不当に殺す罪からあなたの以前の罪に戻るとうい。そうすればあなたも復活の日に地獄の民の一員となるだろう。その報いこそ法を越える者たちの報いなのだ。わたしはあなたを殺した罪でかれらと同じにはなりたくない。」

30 そこでカービールの悪しき自我が不当に兄弟ハービールを殺すのを正当化し、(実際に)殺したことでこの世でもあの世でも自分の運を失った者の一人となったのである。

31 そうしてアッラーはカラスを遣わし、死んだカラスを埋める土地を示し、兄弟の身体をどのように覆うべきか教えた。その時兄弟殺しは、「死んでしまった仲間のカラスを覆ってやるこのカラスのようなことすら、わたしにはできないのか」と言って兄弟の死体を覆ってやり、かれ(カービール)は後悔する者の一人となったのである。

本諸節の功德:

- イスラールの子孫が失態を犯したように、使徒たちへの違反は必ず懲罰をもたらす。
- アダムの二人の息子の物語は、地上で起きた最初の罪であり、クルアーンの表面的な理解によると、嫉妬と分をわきまえず、結果として損失につながる禁じられた血を流すこと、不義をなすことになったのである。
- 後悔は罪を犯した者たちの行末である。
- 悪い習慣を残したり、醜聞を広めたり、奨励したりする者には、実際に従った者と同じ悪行がある。

مِنْ أَجْلِ ذَلِكَ كَتَبْنَا عَلَى بَنِي إِسْرَائِيلَ أَنَّهُ مَنْ قَتَلَ
 نَفْسًا بِغَيْرِ نَفْسٍ أَوْ فَسَادٍ فِي الْأَرْضِ فَكَأَنَّمَا قَتَلَ
 النَّاسَ جَمِيعًا وَمَنْ أَحْيَاهَا فَكَأَنَّمَا أَحْيَا النَّاسَ
 جَمِيعًا وَلَقَدْ جَاءَهُمْ رَسُولُنَا بِالْبَيِّنَاتِ ثُمَّ إِنَّ كَثِيرًا
 مِنْهُمْ بَعَدَ ذَلِكَ فِي الْأَرْضِ لَمُسْرِفُونَ ﴿٣٣﴾ إِنَّمَا
 جَزَاءُ الَّذِينَ يُحَارِبُونَ اللَّهَ وَرَسُولَهُ وَيَسْعَوْنَ فِي
 الْأَرْضِ فَسَادًا أَنْ يُقَتَّلُوا أَوْ يُصَلَّبُوا أَوْ تُقَطَّعَ أَيْدِيهِمْ
 وَأَرْجُلُهُمْ مِنْ خِلَافٍ أَوْ يُنْفَوْا مِنَ الْأَرْضِ ذَلِكَ
 لَهُمْ خِزْيٌ فِي الدُّنْيَا وَلَهُمْ فِي الْآخِرَةِ عَذَابٌ عَظِيمٌ
 ﴿٣٤﴾ إِلَّا الَّذِينَ تَابُوا مِنْ قَبْلِ أَنْ تَقْدِرُوا عَلَيْهِمْ فَاعْلَمُوا
 أَنَّ اللَّهَ غَفُورٌ رَحِيمٌ ﴿٣٥﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا اتَّقُوا
 اللَّهَ وَابْتَغُوا إِلَيْهِ الْوَسِيلَةَ وَجَاهِدُوا فِي سَبِيلِهِ
 لَعَلَّكُمْ تُفْلِحُونَ ﴿٣٦﴾ إِنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا لَوَ أَنَّ لَهُمْ
 مَا فِي الْأَرْضِ جَمِيعًا وَمِثْلَهُ مَعَهُ لَيَفْتَدُوا بِهِ مِنْ
 عَذَابِ يَوْمِ الْقِيَامَةِ مَا تُقْبَلُ مِنْهُمْ وَلَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿٣٧﴾

32) カービールの兄弟殺しのために、われらはイスラエールの子孫に教えたのである。復讐や不信仰によって地上を荒らしたわけでも、戦争のためでもなく、理由もなしに人を殺した者は、全人類を殺したに等しいと。なぜなら、そうした者にとっては無実の人も罪人も違いがないからである。一方、至高のアッラーが不可侵なものとされた殺人を、犯してはならない不可侵なものだと信じて殺しを思い留まった者は、あなたも全人類を生かしたに等しいのである。なぜなら、その行為には全人類の安全があるからである。イスラエールの子孫には確かにわれらの使徒たちが明らかな証や真理と共にやって来たが、それにもかかわらず、多くの者たちが罪を犯し、使徒に背くことでアッラーの定めた境界線を踏み越えたのである。

33) アッラーとその使徒に敵対し、敵意を剥き出しにし、殺害と財産の横領、掠奪で地上を荒廃させる者たちの行末は、磔なしに殺されるか、あるいは木などの十字架に磔で殺されるか、右手と左足を切断されるか、それからまた繰り返せば左手と右足を切断されるか、あるいは遠く追放されるか、そうした刑罰はこの世での恥さらしであり、あの世では大きな懲罰が待っているのである。

34) だがこれらの戦闘員たちの中でも、統治権を持つ者よ、あなたがたの力が及ぶ前に悔い改めた者は別である。アッラーは悔悟の後ではよく赦してくださる、慈悲深い御方。そのお慈悲の一つが、懲罰を帳消しにされることである。

35) 信者よ、そのご命令を果たし、禁止を避けることでアッラーを意識し、かれに近づけるよう求めよ。また、かれのご満悦を求めて不信仰者と懸命に戦え。きっとあなたがたは求めるものを手に入れ、怖れていることを避けられるだろう。

36) アッラーとその使徒たちを信じない者は、万が一地上にある全ての所有権を持ち、さらにそれと同じものを持っていて、復活の日にアッラーの懲罰から逃れるためにそれを差し出したとしても、その犠牲を受け入れてはもらえない。かれらには痛ましい懲罰があるのである。

本諸節の功德:

- 人間の命の不可侵性。それを守り、生かした人はあなたも全人類にそうしたに等しく、人間の命を粗末にしたり、不当にケガをさせたりすれば、あなたも全人類にそうしたに等しい。
- 殺害や強盗、略奪で荒らし、アッラーとその使徒に敵対する戦闘員への罰は、磔なしの死刑または磔ありの死刑、または身体の先端を切ることや国からの追放で、かれらの状態に応じてのことである。
- 戦闘員の中で悪さをする者や権力者の力が及ぶ前の強盗にとっても、悔悟は必ず容赦される。

يُرِيدُونَ أَنْ يُخْرِجُوا مِنَ النَّارِ وَمَا هُمْ بِخَارِجِينَ مِنْهَا
 وَلَهُمْ عَذَابٌ مُّقِيمٌ ﴿٣٧﴾ وَالسَّارِقُ وَالسَّارِقَةُ فَاقْطَعُوا
 أَيْدِيَهُمَا جِزَاءً بِمَا كَسَبَا نَكَالًا مِنَ اللَّهِ وَاللَّهُ عَزِيزٌ
 حَكِيمٌ ﴿٣٨﴾ فَمَنْ تَابَ مِنْ بَعْدِ ظُلْمِهِ وَأَصْلَحَ فَإِنَّ اللَّهَ
 يَتُوبُ عَلَيْهِ إِنَّ اللَّهَ عَفُورٌ رَحِيمٌ ﴿٣٩﴾ أَلَمْ تَعْلَمْ أَنَّ اللَّهَ
 لَهُ مُلْكُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ يَعَذِّبُ مَنْ يَشَاءُ وَيَغْفِرُ
 لِمَنْ يَشَاءُ وَاللَّهُ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿٤٠﴾ يَا أَيُّهَا
 الرَّسُولُ لَا يَحْزَنْكَ الَّذِينَ يُسْرِعُونَ فِي الْكُفْرِ مِنَ
 الَّذِينَ قَالُوا آمَنَّا بِأَفْوَاهِهِمْ وَلَمْ تُؤْمِنْ قُلُوبُهُمْ وَمِنَ
 الَّذِينَ هَادُوا وَسَمَّعُونَ لِلْكَذِبِ سَمَّعُونَ لِقَوْمِهِ
 الْآخِرِينَ لَمْ يَأْتُوكَ يَحْزِنُونَ الْكَلِمَةَ مِنْ بَعْدِ مَوَاضِعِهِ
 يَقُولُونَ إِنْ أُوتِيتُمْ هَذَا فَخُذُوهُ وَإِن لَمْ تُؤْتَوْهُ
 فَاحْذَرُوا وَمَنْ يُرِدِ اللَّهُ فِتْنَتَهُ فَلَنْ تَمْلِكَ لَهُ مِنْ اللَّهِ
 شَيْئًا أُولَئِكَ الَّذِينَ لَمْ يُرِدِ اللَّهُ أَنْ يَطَهِّرْ قُلُوبَهُمْ لَهُمْ
 فِي الدُّنْيَا خِزْيٌ وَلَهُمْ فِي الْآخِرَةِ عَذَابٌ عَظِيمٌ ﴿٤١﴾

37) かれらが地獄の業火に入るとそこから出たがるが、そんなことができようか。そこから出ることは決してなく、永続的な苦しみを得るのである。他人の財産を大っぴらに奪う者の規定を明らかにした後でそれを密かに、つまり盗み取る者の規定を明らかにして仰せられた。

38) 男女の盗人は一統治する者よー正当な理由なしに他人の財産に手を出す罪を犯したことへのアッラーからの罰として、かつかれら兩人と他の者たちへの見せしめとして、それぞれの右手を断ち切るがよい。アッラーは威力並びない御方であり、その定めと方針に英明な御方である。

39) 盗みから悔い改めて行いを正す者には、アッラーは向き直してくださる。それはアッラーがその僕たちの中でも悔い改める者を何度でも赦してくださる、慈悲深い御方だからである。だがすでに事が統治者のもとにまで達した者の刑罰が、悔い改めて無効となるわけではない。

40) もうわかったであろう、使徒よ。アッラーには天地の王権があり、お望みのままを動かされ、その公平さでお望みの者に苦しみを与え、その恩恵でお望みの者を赦されるのである。アッラーは全能なる御方であり、何もかれを妨げることはできない。

41) 使徒よ、不信仰の行いを見せびらかすことに勤しみ、信仰を明らかにしながら不信仰を胸に潜めて嫌がらせをする偽信者のために悲しんではならない。それから自分たちの長老のついた嘘に耳を傾け、頭領たちに考えなしに従うユダヤ教徒のために悲しんではならない。かれらは律法書の中のアッラーの御言葉を好みに応じて改竄(かいざん)し、従う者たちに言うのである。「ムハンマドの定めが好みに合えばかれに従い、合わないならかれには注意せよ。」アッラーが迷妄を望まれる者は、使徒よ、その者のために迷いを払いのけ、真理の道へ導いてくれる存在を見つけることはない。こうした特徴を持つユダヤ教徒や偽信者は、不信仰から心を浄めるのをアッラーが望まれなかった者であり、この世では恥辱、あの世では地獄の業火という大きな懲罰があるのである。

本諸節の功德:

- 窃盗の刑罰制定に見る英知。他者の財産に手を出すのを踏みとどまらせ、実際に陥った過ちについて敵対する者を怖がらせるためである。
- 権力者のもとに知らせが届くまでであれば、盗んだものの返却を条件に盗人の悔い改めは受け入れられること。権力者に知らせが届いてしまえば、裁定は必須となり、悔い改めでそれが無効となることはない。
- アッラーへと人々をいざなう伝教者は、不信仰や陰謀、策略など一部の人たちが仕掛けることに悩まないほうがよい。アッラーがかれらの謀略を無効にしてくださいからである。
- イスラームを主張しながら、不信仰の行いを見せびらかせて、信者に嫌がらせをしようとする偽信者の執念。

سَمِعُونَ لِلْكَذِبِ أَكْثَرُونَ لِلسَّحْتِ فَإِنْ جَاءُوكَ
 فَأَحْكُم بَيْنَهُمْ أَوْ أَعْرَضْ عَنْهُمْ وَإِنْ تُعْرِضْ عَنْهُمْ فَلَنْ
 يَضُرُّوكَ شَيْئًا وَإِنْ حَكَمْتَ فَأَحْكُم بَيْنَهُم بِالْقِسْطِ
 إِنَّ اللَّهَ يُحِبُّ الْمُقْسِطِينَ ﴿٤٢﴾ وَكَيْفَ يُحْكِمُوكَ
 وَعِنْدَهُمُ التَّوْرَةُ فِيهَا حُكْمُ اللَّهِ ثُمَّ يَتَوَلَّوْنَ مِنْ بَعْدِ
 ذَلِكَ وَمَا أَوْلَتْكَ بِالْمُؤْمِنِينَ ﴿٤٣﴾ إِنَّا أَنْزَلْنَا التَّوْرَةَ
 فِيهَا هُدًى وَنُورٌ يُحْكَمُ بِهَا النَّبِيُّونَ الَّذِينَ أَسْلَمُوا
 لِلَّذِينَ هَادُوا وَالرَّبَّاتِينِ وَالْأَخْبَارِ بِمَا اسْتَحْفَظُوا مِنْ
 كِتَابِ اللَّهِ وَكَانُوا عَلَيْهِ شُهَدَاءَ فَلَا تَخْشَوُا النَّاسَ
 وَآخِشُونِ وَلَا تَتَّبِعُوا رِيَاسَتِي ثَمَّ قَلِيلًا وَمَنْ لَمْ يَحْكَمْ
 بِمَا أَنْزَلَ اللَّهُ فَأُولَئِكَ هُمُ الْكَافِرُونَ ﴿٤٤﴾ وَكَتَبْنَا
 عَلَيْهِمْ فِيهَا أَنَّ النَّفْسَ بِالنَّفْسِ وَالْعَيْنَ بِالْعَيْنِ وَالْأَنْفَ
 بِالْأَنْفِ وَالْأُذُنَ بِالْأُذُنِ وَالسِّنَّ بِالسِّنِّ وَالْجُرُوحَ
 قِصَاصٌ فَمَنْ تَصَدَّقَ بِهِ فَهُوَ كَفَّارَةٌ لَهُ وَمَنْ
 لَمْ يَحْكَمْ بِمَا أَنْزَلَ اللَّهُ فَأُولَئِكَ هُمُ الظَّالِمُونَ ﴿٤٥﴾

④② これらユダヤ教徒は嘘をよく聞き、利子のように禁じられた財産をよく貪る。よつてもしかれらがあなたに裁定を求めて来たならば、使徒よ、あなたが望むならかれらを分けるか、かれらの間に障壁を置くがよい。どちらを選ぶか、選択はあなたに委ねられている。もしかれらの間に障壁を置いたならば、かれらがあなたを害することはないだろう。そしてもしかれらの間を分けたならば、たとえかれらが不義なす敵であったとしても公平に分けよ。アッラーは裁定において公平な者を好まれる。

④③ かれらの事はまことに驚きである。あなたを信じないにもかかわらず、あなたの裁定がかれらの好みに合うのを期待してあなたに裁定を求める。かれらのもとには自分たちが信仰を寄せている律法書があり、そこにはアッラーの定めがある。その上もしあなたの裁定がかれらの好みに合わなければ、あなたの裁定に反対する。つまりかれらは自分たちの奉じる書への不信仰とあなたの裁定への反対とを合わせたのである。かれらがなすことは信者がなすことではない。よつてかれらは信者ではない。

④④ われらは律法書をムーサーに下した。そこには正しい導きがあり、灯明となる光があり、アッラーに忠実に従ったイスラエルの子孫の預言者たちの裁きの基があり、アッラーがその書の守り手として人々を育ててきた学者や法学者の裁きの基がある。かれはかれらをその書が真理であることの証言者として改変や入替えから守る信用の人とし、人々の諮問先とした。よつてユダヤ教徒よ、人々を恐れるのではなく、われのみを恐れるのだ。金銭や名誉、地位といったわずかな見返りでアッラーが下されたことによる裁定の代わりを得てはならない。アッラーが啓示で下されたものによって裁かない者は、それを認可されたものとして、または他のものを優先して、または同等のものとしてであっても、かれらこそ本当の不信仰者である。

④⑤ われらは律法書において、正当な理由なく故意に殺人を犯した者は死刑となり、故意に目をえぐり出した者は自分の目がえぐり出され、故意に鼻を欠けさせた者は自分の鼻が欠けさせられ、故意に耳を切断した者は自分の耳が切断され、故意に歯を抜いた者は自分の歯が抜かれることを義務付けた。それから傷害においては加害者が自分のした傷害行為と同じもので罰せられる。加害者を率先して赦してやる者は、自分を害した者への容赦によって自分の罪の償いとなるだろう。だが、復讐においてであれ、その他の事柄においてであれ、アッラーが下したもので裁かない者は、定められた境界線を越える者である。

本諸節の功德:

- ユダヤ教徒の特徴をいくつか挙げています。嘘や利子の貪り、教えにはない裁定を好むことなど、かれらの迷いを明らかにし、注意喚起を促すためである。
- 人命や傷害における公正な復讐の規定説明。これはアッラーがイスラーム以前の者に義務付けられたものである。
- 復讐よりも容赦の勧め。罪の贖いといった偉大な報奨の説明。
- 復讐その他でアッラーが下されたもの以外で裁くことへの警告。

وَقَفَّيْنَا عَلَىٰ آثَرِهِم بِعِيسَى ابْنِ مَرْيَمَ مُصَدِّقًا لِّمَا بَيْنَ يَدَيْهِ
 مِنَ التَّوْرَةِ ۗ وَآتَيْنَاهُ الْإِنجِيلَ فِيهِ هُدًى وَنُورٌ وَمُصَدِّقًا
 لِّمَا بَيْنَ يَدَيْهِ مِنَ التَّوْرَةِ وَهُدًى وَمَوْعِظَةً لِّلْمُتَّقِينَ ﴿٤٦﴾
 وَلِيَحْكُمَ أَهْلَ الْإِنجِيلِ بِمَا أَنزَلَ اللَّهُ فِيهِ ۖ وَمَن لَّمْ يَحْكَمْ
 بِمَا أَنزَلَ اللَّهُ فَأُولَٰئِكَ هُمُ الْفٰسِقُونَ ﴿٤٧﴾ وَأَنزَلْنَا إِلَيْكَ
 الْكِتَابَ بِالْحَقِّ مُصَدِّقًا لِّمَا بَيْنَ يَدَيْهِ مِنَ الْكِتَابِ
 وَمُهَيِّمًا عَلَيْهِ ۗ فَاحْكُم بَيْنَهُم بِمَا أَنزَلَ اللَّهُ ۗ وَلَا تَتَّبِعْ أَهْوَاءَهُمْ
 عَمَّا جَاءَكَ مِنَ الْحَقِّ لِكُلِّ جَعَلْنَا مِنكُمُ شِرْعَةً وَمِنْهَا جَا
 وَلَوْ شَاءَ اللَّهُ لَجَعَلَكُمْ أُمَّةً وَاحِدَةً ۚ وَلٰكِن لِّيَبْلُوَكُمْ
 فِي مَآءِ آتٰنِكُمْ فَاٰسْتَفِقُوا ۗ الْخَيْرَاتِ إِلَى اللَّهِ مَرْجِعُكُمْ جَمِيعًا
 فَيُنَبِّئُكُمْ بِمَا كُنْتُمْ فِيهِ تَخْتَلِفُونَ ﴿٤٨﴾ وَإِن أَحْكَمْتُم
 بَيْنَهُمْ بِمَا أَنزَلَ اللَّهُ وَلَا تَتَّبِعْ أَهْوَاءَهُمْ وَأَحَدَرَهُم ۖ إِن يَفْتِنُوكَ عَنْ
 بَعْضِ مَا أَنزَلَ اللَّهُ إِلَيْكَ ۖ فَإِن تَوَلَّوْا فَاعْلَمُوا أَنَّمَا يُرِيدُ اللَّهُ أَن يُصِيبَهُمْ
 بِبَعْضِ ذُنُوبِهِمْ ۗ وَإِن كَثُرُوا ۖ مِنَ النَّاسِ لَفٰسِقُونَ ﴿٤٩﴾ أَفَحُكْمَ
 الْجَاهِلِيَّةِ يَبْغُونَ ۗ وَمَنْ أَحْسَنُ مِنَ اللَّهِ حُكْمًا لِّقَوْمٍ يُوقِنُونَ ﴿٥٠﴾

46 われらはイスラエルの子孫の預言者たちの後に、マルヤムの子イサーを律法にあるものの信者かつそれによる裁定者として続かせた。それからかれに真理への導きや疑念打破の証拠、問題解決の規定、少しだけ規定が打ち消され、改定されただけでそれ以前に啓示された律法に合致するものを網羅する福音書を与え、唯一の神を意識する者にとっての導きとし、禁じられた行為を食い止めるものとした。

47 ムハンマドがかれらに遣わされる前のキリスト教徒は、アッラーが福音書で下したものを信じ、そのうちの誠実なもので裁くがよい。アッラーが下されたもので裁かない者は、アッラーに従うことからはみ出た者であり、真理を捨て虚偽へと傾く者である。

48 使徒よ、われらはあなたに間違いなくアッラーの御許から下されたクルアーンを啓示した。それ以前に下された啓典を確認し、保証するものであり、それに合致するものは真理であり、違えるものは虚偽である。よってアッラーがあなたに啓示されたものを通して人々の間を裁定し、あなたに下した疑いの余地なき真理を放置してつき従ったかれらの我欲に従ってはならない。われらは全ての共同体に実践的な規定と導きの基となる明確な道をもたらした。万が一アッラーが様々な教えを統一することを望まれたなら、統一されただろう。しかしながらかれがされたのは、皆を試し、忠実な者と違反する者とを(本人たちにわかるように)明らかにすべく、全ての共同体に教えをもたらされることであった。だから善行実践と悪行放棄に励むがよい。アッラーだけが復活の日にあなたがたの帰り処となるのであり、そこでかれはあなたがたが互いに意見を違えていたことについて明らかにされ、生前の行いに応じて報いてくださる。

49 使徒よ、アッラーの啓示を基に裁定せよ。自我盲従に過ぎないかれらの意見に従ってはならない。アッラーがあなたに啓示された一部について、かれらがあなたを迷わせないように注意せよ。そのためにはかれらは手を抜かないだろう。だからアッラーがあなたに啓示したものによって下した定めを受け入れるのを拒絶したならば、アッラーがかれらを自らの罪の一部のためにこの世の苦しみに罰し、あの世ではかれらの全ての罪を罰するのを望まれていると知れ。実に多くの人がアッラーに忠実であることから道を踏み外している。

50 かれらはあなたの裁定に背き、自我に従う偶像崇拜者たち、イスラーム以前の無明時代の民の裁定を求めるといえるのか。たとえ虚偽であれ自分の好みに合うものしか従わない我欲と無知の民にはわからなくとも、アッラーがその使徒に下されたもので理解する確信の民にとっては、アッラーよりも優れた裁定者は存在しないのは明らかなことである。

本諸節の功德:

- 預言者たち(の教え)は宗教の基礎においては同じであり、枝葉の部分でそれぞれの教えに若干の違いがあるだけである。
- アッラーの教えでの裁定を優先し、我欲でそれ以外に従うのを遠ざけることが義務付けられる。
- イスラーム以前の無明時代の民の裁定と常識に任せるのは、非難されることである。

*يَأَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا لَا تَتَّخِذُوا الْيَهُودَ وَالنَّصَارَىٰ أَوْلِيَاءَ بَعْضُهُمْ
 أَوْلِيَاءُ بَعْضٍ وَمَنْ يَتَوَلَّهُمْ مِنْكُمْ فإِنَّهُ مِنْهُمْ إِنَّ اللَّهَ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ
 الظَّالِمِينَ ﴿51﴾ فَتَرَى الَّذِينَ فِي قُلُوبِهِمْ مَرَضٌ يُسْرِعُونَ فِيهِمْ يَقُولُونَ
 نَحْشَىٰ أَنْ تُصِيبَنَا دَائِرَةٌ فَعَسَىٰ اللَّهُ أَنْ يَأْتِيَ بِالْفَتْحِ أَوْ أَمْرٍ مِنْ عِنْدِهِ
 فَيُضِيعُوا عَلَىٰ مَا أَسْرَوْا فِي أَنفُسِهِمْ نَذِيرٌ ﴿52﴾ وَيَقُولُ الَّذِينَ آمَنُوا
 أَهَؤُلَاءِ الَّذِينَ أَقْسَمُوا بِاللَّهِ جَهْدَ أَيْمَانِهِمْ إِنَّهُمْ لَمَعَكُمْ حَبِطَتْ
 أَعْمَالُهُمْ فَاصْبِرُوا خَيْرِينَ ﴿53﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا مَنْ يَرْتَدَّ
 مِنْكُمْ عَنْ دِينِهِ فَسَوْفَ يَأْتِي اللَّهُ بِقَوْمٍ يُحِبُّهُمْ وَيُحِبُّونَهُ أَذِلَّةَ
 عَلَى الْمُؤْمِنِينَ أَعِزَّةٌ عَلَى الْكُفْرِينَ يُجَاهِدُونَ فِي سَبِيلِ اللَّهِ وَلَا
 يَخَافُونَ لَوْمَةَ لَائِمٍ ذَلِكَ فَضْلُ اللَّهِ يُؤْتِيهِ مَنْ يَشَاءُ وَاللَّهُ وَاسِعٌ
 عَلِيمٌ ﴿54﴾ إِنَّمَا وَلِيُّكُمُ اللَّهُ وَرَسُولُهُ وَالَّذِينَ آمَنُوا الَّذِينَ يُقِيمُونَ
 الصَّلَاةَ وَيُؤْتُونَ الزَّكَاةَ وَهُمْ بِالْإِيمَانِ مِنَّمَا يَتَوَلَّى اللَّهُ وَرَسُولُهُ
 وَالَّذِينَ آمَنُوا فَإِنَّ حِزْبَ اللَّهِ هُمُ الْمُغْلِبُونَ ﴿55﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا
 لَا تَتَّخِذُوا الَّذِينَ اتَّخَذُوا دِينَكُمْ هُزُؤًا وَلَعِبًا مِمَّنْ الَّذِينَ أُوتُوا
 الْكِتَابَ مِنْ قَبْلِكُمْ وَالْكَفَّارُ أَوْلِيَاءُ وَاتَّقُوا اللَّهَ إِنَّ كُنتُمْ مُؤْمِنِينَ ﴿56﴾

禁じる御方である。

こうしてユダヤ教徒やキリスト教徒、その他不信仰者との親しい交友を禁じられた後で、信者に限って交友を持つとする者の知らせについて仰せられた。

〔55〕ユダヤ教徒やキリスト教徒、その他不信仰者は友ではない。あなたがたの友はアッラーとその使徒、謙虚にアッラーへ従うために礼拝を捧げ、施しを払う者である。

〔56〕アッラーとその使徒、信者たちを支援する者は、アッラーの党の一員であり、アッラーの党こそがアッラーの助けを得られて勝利する者である。

〔57〕信者よ、以前に啓典を与えられながらも、あなたがたの宗教を馬鹿にし、嘲笑うようなユダヤ教徒やキリスト教徒、多神教徒を同盟者や親友としてはならない。もしあなたがたがアッラーを信じ、下されたものを信じるならば、アッラーが禁じられたかれらとの親しい交流を避けることでアッラーを畏れよ。

本諸節の功徳:

- アッラーとその使徒、信者たちへの愛と忠誠かつ不信仰の民への憎悪とかれらを愛するのを避けることに要約される、忠誠と孝行の概念に関する注意。
- 偽善者の特徴のひとつ、それはアッラーの敵と親しくすることである。
- 宗教を支援することにおける恥辱的なレベルの低さは、別の者にとって代われ、宗教を支援するという栄誉が取り上げられてしまう結果につながることである。
- 不信仰者や偽善者のようにアッラーの宗教を嘲笑する者には注意せよという警告と、かれらと親密にすることへの注意喚起。

〔51〕アッラーとその使徒を信仰する者たちよ、ユダヤ教徒やキリスト教徒をあなたがたが信頼して従う同盟者や親友としてはならない。かれらが信頼するのは同じ信仰を分かち合う者だけである。よって両集団を集わせるのはあなたがたへの敵対行為である。かれらと親しくなる者は、かれらの一員とみなされることになる。まことに不信仰者と親しくすることで不義をなす者をアッラーが導かれることはない。

〔52〕使徒よ、信仰の弱い偽信者がユダヤ教徒やキリスト教徒と率先して親しくしようと、「かれらが優勢になって国を持ち、嫌がらせを受けないかが心配なのだ」と言うのを見るだろう。きっとアッラーがその使徒と信者たちに勝利をもたらすか、何らかの命をもたらしてユダヤ教徒とかれらに親しくする者の権勢を妨げるかし、かれらと我先に親しくしようとする者は、思い込みで執着したものが嘘偽りであることを知り、自らの心中に隠した偽善を後悔するだろう。

〔53〕信者は偽善者の状態に驚いて言う。「信者たちよ、わたしたちは信仰と支援、友好関係においてあなたがたと共にいると誓いを立てたのはかれらですか。」かれらの行いは無効となり、望みを失い、約束された懲罰によって失敗者となるのである。

〔54〕信者よ、あなたがたの中で信仰から不信仰へ戻る者は、アッラーを愛し、かれもその公正さによりかれらを愛する民で取り換えてしまわれるだろう。かれらは信者には思いやり深く、不信仰者には厳しい者たちで、アッラーの御言葉が至上のものとなるよう自分の財産と命をもって最善の努力を尽くす者たちである。かれらはアッラーのご満悦を被造物の喜びに優先させるため、脅す者の脅しを恐れることはない。それは数ある僕たちの中でもお望みの者に与えられるアッラーの恩恵である。アッラーは恩恵と至誠の広大なる御方であり、恩恵に相応しい者を知ってそれを恵み、相応しくない者にはそれを

وَإِذْ نَادَيْتُمْ إِلَى الصَّلَاةِ اتَّخَذْتُمْ هَاهُنَا وَلِعِبَاءَ ذَلِكَ بِأَنَّهُمْ قَوْمٌ لَا يَعْقِلُونَ ﴿٥٨﴾ قُلْ يَا أَهْلَ الْكِتَابِ هَلْ تَنْقِمُونَ مِنَّا إِلَّا أَنْ أَمَنَّا بِاللَّهِ وَمَا أُنزِلَ إِلَيْنَا وَمَا أُنزِلَ مِن قَبْلُ وَأَنْ أَكْثَرُكُمْ فَسِيقُونَ ﴿٥٩﴾ قُلْ هَلْ أُنبِئُكُمْ بِشَرِّ مِمَّنْ ذَلِكَ مَثُوبَةٌ عِنْدَ اللَّهِ مِنْ لَعْنَةِ اللَّهِ وَعَظَابِ عَلَيْهِ وَجَعَلَ مِنْهُمْ الْفِرْدَوْهَ وَالْحَنَازِيرَ وَعَبَدَ الطَّغُوتَ أُولَئِكَ شَرٌّ مَكَانًا وَأَضَلُّ عَن سَوَاءِ السَّبِيلِ ﴿٦٠﴾ وَإِذْ جَاءُوكُمُ الْوَاءَ امْتَأَوْا وَقَدْ دَخَلُوا بِالْكَفْرِ وَهُمْ قَدْ خَرَجُوا بِهِ وَاللَّهُ أَعْلَمُ بِمَا كَانُوا يَكْتُمُونَ ﴿٦١﴾ وَتَرَى كَثِيرًا مِنْهُمْ يُسِرُّونَ فِي الْأَثَرِ وَالْعُدُونِ وَأَكْثَرُهُمُ السُّحْتُ لَيْسَ مَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿٦٢﴾ لَوْلَا يَنْهَاهُمُ الرَّبَّانِيُّونَ وَالْأَحْبَارُ عَن قَوْلِهِمُ الْإِثْمَ وَأَكْثَرُهُمُ السُّحْتُ لَيْسَ مَا كَانُوا يَصْنَعُونَ ﴿٦٣﴾ وَقَالَتِ الْيَهُودُ يَدُ اللَّهِ مَعْلُومَةٌ غَلَّتْ أَيْدِيهِمْ وَلُعِنُوا بِمَا قَالُوا بَلْ يَدَاهُ مَبْسُوطَتَانِ يُنفِقُ كَيْفَ يَشَاءُ وَلَيَزِيدَنَّ كَثِيرًا مِّنْهُمْ مَا أُنزِلَ إِلَيْكَ مِن رَّبِّكَ طُغْيَانًا وَكُفْرًا وَالْقِينَابِيُّنَا بَيْنَهُمُ الْعَدَاوَةَ وَالْبَغْضَاءَ إِلَى يَوْمِ الْقِيَامَةِ كُلَّمَا أَوْقَدُوا نَارًا لِلْحَرْبِ أَطْفَأَهَا اللَّهُ وَيَسْعَوْنَ فِي الْأَرْضِ فَسَادًا وَاللَّهُ لَا يُحِبُّ الْمُفْسِدِينَ ﴿٦٤﴾

58 かれらは礼拝という唯一の神に近づくための最大の信仰行為への呼びかけをする際にも嘲笑う。それはかれらがアッラーへの信仰行為やその教えの意味を理解しない民だからである。

59 言いなさい、使徒よ。啓典の民で他人を嘲笑する者に。「あなたがたがわたしたちを馬鹿にするのは、わたしたちがアッラーを信じ、啓示されたことを信じるからですか。あるいはあなたがたの多くがアッラーにお仕えることから外れた者となったとわたしたちが信じるからですか。ならばあなたがたがわたしたちを馬鹿にするのは誉れであり、辱めではありません。」

60 言いなさい、使徒よ。「誰がもっと恥ずかしいか、かれらよりもっと激しい懲罰を受けなければならないかをお知らせしましょうか。それはアッラーがそのお慈悲から追い出してお怒りになったことで猿や豚に姿を変えられてしまい、偶像神の信奉者としてしまわれた、かれらの先祖のことです」と。偶像神とはアッラー以外に人が自らの意志で崇める全ての存在であり、ここに言及された者たちこそが復活の日には最悪の地位にあり、まっすぐな道から遠く迷い外れた者なのである。

61 信者よ、もし偽善者がやって来て信仰を装ったとしても、実際はかれらが入り出す際には不信仰が離れることはなく、たとえかれらが信仰を取り繕ったとしても、かれらが不信仰を胸の内に秘めているのをアッラーはよくご存知であられ、それに報いられよう。

62 使徒よ、ユダヤ教徒や偽善者の多くが嘘や不当なかたちで他者に危害を加え、禁じられた方法で人々の財産を貪るといった罪を犯す。なんと酷いことをする者たちだろうか。

63 嘘偽りの証言、不当なかたちで人々の財産を貪ることに勤しむのを、かれらの指導者や学者は止めようとなしいのか。悪を禁じない指導者や学者の行いのなんと酷いことか。

64 ユダヤ教徒は困窮に見舞われたときに言った。「アッラーの手は善良さの寄与と施しから閉ざしてしまわれた。その御許にあるものをわたしたちからは押し留めてしまわれたのだ。」かれらの手が善行から抑えつけられ、アッラーのお慈悲から追放されたのはこの言葉が原因だということがわからないのか。完全なかれの御手はむしろ善良さの寄与と施しのために広げられており、お望みの者に費やし、広げ、閉ざされるのである。かれを妨げうる者も無理強いさせられる者もない。使徒よ、ユダヤ教徒があなたに下されたものに何かを加えることはできない。かれらは一線を越え、抵抗するだけである。それはかれらの嫉妬心のせいであり、われらはユダヤ教徒の諸宗派の間に敵意と憎悪を投げ込んだ。戦いのために集い、備えを万全にし、戦火を灯すための策略を巡らすたびに、アッラーはかれらの集まりを離散させ、その力を無力にしてしまわれるのである。にもかかわらず、いまだにかれらはイスラームを潰そうとして地上を荒廃させ、そのための策略を巡らせ続けている。アッラーは退廃の民を嫌われる。

本諸節の功徳:

- 自分の民が犯す罪に対して沈黙し、その悪行を解き明かすことなく警告もしない学者の非難。
- アッラーに対するユダヤ教徒の無礼さ。なぜなら、「手が押し留められ、善を行えないように抑えつけられている」と表現したからである。
- 両手という特徴の確定。かれの荘厳さと偉大な権勢に相応しいかたちによる。
- ユダヤ教諸宗派の不信仰と真理逸脱により、かれらの間で争いと敵対が生じたことへの示唆。

وَلَوْ أَنَّ أَهْلَ الْكِتَابِ ءَامَنُوا وَاتَّقَوْا لَكَفَرْنَا عَنْهُمْ سَيِّئَاتِهِمْ وَلَآ دَخَلْنَا لَهُمْ جَنَّةَ النَّعِيمِ ۝٦٥ وَلَوْ أَنَّهُمْ أَقَامُوا التَّوْرَةَ وَالْإِنْجِيلَ وَمَا أَنْزَلْنَا إِلَيْهِمْ مِنْ رَبِّهِمْ لَأَكَلُوا مِنْ فَوْقِهِمْ وَمِنْ تَحْتِ أَرْجُلِهِمْ مِنْهُمْ أُمَّةٌ مُّقْتَصِدَةٌ ۝٦٦ وَكَثِيرٌ مِّنْهُمْ سَاءَ مَا يَعْمَلُونَ ۝٦٧ يَا أَيُّهَا الرَّسُولُ بَلِّغْ مَا أَنْزَلَ إِلَيْكَ مِنْ رَبِّكَ ۖ وَإِن لَّمْ تَفْعَلْ فَمَا بَلَغْتَ رِسَالَتَهُ ۗ وَاللَّهُ يَعْصِمُكَ مِنَ النَّاسِ ۗ إِنَّ اللَّهَ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ الْكَافِرِينَ ۝٦٨ قُلْ يَا أَهْلَ الْكِتَابِ لَسْتُمْ عَلَىٰ شَيْءٍ حَتَّىٰ تُقِيمُوا التَّوْرَةَ وَالْإِنْجِيلَ وَمَا أَنْزَلَ إِلَيْكُمْ مِنْ رَبِّكُمْ ۗ وَلَيُزِيدَنَ كَثِيرًا مِّنْهُمْ مَا أَنْزَلَ إِلَيْكَ مِنْ رَبِّكَ طُغْيَانًا وَكُفْرًا ۗ فَلَا تَأْسَ عَلَى الْقَوْمِ الْكَافِرِينَ ۝٦٩ إِنَّ الَّذِينَ ءَامَنُوا وَالَّذِينَ هَادُوا وَالصَّالِحِينَ وَالنَّصَارَىٰ مَنْ ءَامَنَ بِاللَّهِ وَالْيَوْمِ الْآخِرِ وَعَمِلَ صَالِحًا فَلَا خَوْفٌ عَلَيْهِمْ وَلَا هُمْ يَحْزَنُونَ ۝٧٠ لَقَدْ أَخَذْنَا مِيثَاقَ بَنِي إِسْرَائِيلَ وَارْسَلْنَا إِلَيْهِمْ رَسُولًا قُلْنَا إِنَّا جَاءُكُمْ رَسُولٌ مِّن رَّبِّكُمْ فَمَا أَتَاهُمْ إِلَّا أَنفُسُهُمْ فَرِيقًا كَذَّبُوا وَفَرِيقًا يَقْتُلُونَ ۝٧١

65) もしユダヤ教徒とキリスト教徒がムハンマドのもたらしたものを信じ、罪を避けることでアッラーを畏れたならば、たとえ多くの罪であれが今までに犯した罪をわれらは贖い、復活の日には恩恵の樂園に入れてやり、尽きない恩恵を楽しめるようにしてやろう。

66) もしユダヤ教徒が律法書で啓示されたことを実践し、キリスト教徒が福音書で啓示されたことを実践し、クルアーンで啓示されたことを全て実践したならば、雨が降り大地が潤うといった糧の要因を容易にすしただろう。啓典の民には真理に対して不動の信仰を持つ公平な者もいるが、多くの者は信仰の欠如により行いが悪くなってしまっている。

67) 使徒よ、主から下されたものを全て伝え、少しも隠してはならない。少しでも隠してしまうようなことがあれば、メッセジの伝達者ではなくなってしまう。(アッラーの使徒は伝達を命じられたこと全てをしっかりと伝達された。だからそれ以外の思い込みを主張する者は、アッラーに対して大きな嘘を吐くに等しい。)

今日以降、アッラーがあなたを人々から守ってくださるから、あなたに悪さをすることはできない。あなたはただ伝達すればよいのである。導きを望まない不信仰者をアッラーが正導へと成功させることはない。

68) 言いなさい、使徒よ。「あなたがたユダヤ教徒やキリスト教徒は、律法書や福音書にあることを実践するほど正しい宗教にのっつてはいけません。だから今やそれを信じて行うことなしにはあなたがたの信仰が成立しない、クルアーンで啓示されたことを実践してください。」だが啓典の民の多くは、嫉妬のせいであなたに啓示されたものをこれまで以上に嘘と否定し、不信仰をさらに募らせるだろう。よって不信仰者のために残念な気持ちを抱くことはない。あなたに従った信者にこそ、豊かさはあるのである。

69) 信者たちやユダヤ教徒、ある預言者たちに従うサービア教徒やキリスト教徒のうち、アッラーと最後の日を信じ、善行を果たす者は、将来への恐れはなく、この世で取り逃がしたものについて悲しむことはない。

70) われらはイスラエールの子孫に聞き従うよう確実な誓約を結び、アッラーの教えを伝えるために使徒たちを遣わした。だがかれらはそれを破り、使徒たちがもたらしたものに逆らうよう自分の我欲に従い、使徒たちのある者を嘘と否定し、また別のある者を殺害した。

本諸節の功德:

- アッラーが啓示されたことを実践するのは、悪しき行いの贖いや天国に入れてもらうこと、糧を豊かに恵んでもらうことのきっかけとなる。
- 通用し、責任を保証される伝達は、欠けたところのない完全なものであり、啓示されたものに照らし合わせたものである、という伝教者への助言。
- それがアッラーからのものであることの証拠を明らかにしない限り、どんな信仰対象も考慮されることはない。

وَحَسِبُوا أَنَّ أَتَّكُونَ فِتْنَةً فَعَمُوا وَصَمُوا ثُمَّ تَابَ اللَّهُ عَلَيْهِمْ ثُمَّ
 عَمُوا وَصَمُوا كَثِيرٌ مِنْهُمْ وَاللَّهُ بِصِيرٍ بِمَا يَعْمَلُونَ ﴿٧١﴾
 لَقَدْ كَفَرَ الَّذِينَ قَالُوا إِنَّ اللَّهَ هُوَ الْمَسِيحُ ابْنُ مَرْيَمَ وَقَالَ الْمَسِيحُ
 يَا بَنِي إِسْرَائِيلَ اعْبُدُوا اللَّهَ رَبِّي وَرَبَّكُمْ إِنَّهُ مَن يُشْرِكْ
 بِاللَّهِ فَقَدْ حَرَّمَ اللَّهُ عَلَيْهِ الْجَنَّةَ وَمَأْوَاهُ النَّارُ وَمَا
 لِلظَّالِمِينَ مِنْ أَنْصَارٍ ﴿٧٢﴾ لَقَدْ كَفَرَ الَّذِينَ قَالُوا إِنَّ اللَّهَ
 ثَالِثُ ثَلَاثَةٍ وَمَا مِنْ إِلَهٍ إِلَّا إِلَهٌ وَاحِدٌ وَإِن لَّمْ يَتَّهَمُوا
 عَمَّا يَقُولُونَ لَيَمَسَّنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿٧٣﴾
 أَفَلَا يَتُوبُونَ إِلَى اللَّهِ وَيَسْتَغْفِرُونَ لَهُ وَاللَّهُ عَفُورٌ رَّحِيمٌ ﴿٧٤﴾
 مَا الْمَسِيحُ ابْنُ مَرْيَمَ إِلَّا رَسُولٌ قَدْ خَلَتْ مِنْ قَبْلِهِ الرُّسُلُ وَأُمُّهُ
 صِدِّيقَةٌ كَانَا يَأْكُلَانِ الطَّعَامَ انظُرْ كَيْفَ نُبَيِّنُ لَهُمُ الْآيَاتِ
 ثُمَّ انظُرْ أَنَّى يُؤْفَكُونَ ﴿٧٥﴾ قُلْ اتَّعْبُدُونَ مِن دُونِ اللَّهِ مَا لَآ
 يَمْلِكُ لَكُمْ ضَرًّا وَلَا نَفْعًا وَاللَّهُ هُوَ السَّمِيعُ الْعَلِيمُ ﴿٧٦﴾ قُلْ
 يَا أَهْلَ الْكِتَابِ لَا تَغْلُوا فِي دِينِكُمْ غَيْرَ الْحَقِّ وَلَا تَتَّبِعُوا أَهْوَاءَ
 قَوْمٍ قَدْ ضَلُّوا مِن قَبْلُ وَأَصْلُوا كَثِيرًا وَضَلُّوا عَنْ سَوَاءِ السَّبِيلِ ﴿٧٧﴾

71) かれらは自分たちが行った誓約破棄や預言者たちを嘘と否定すること、殺害することは何の害にもならないと思ひ込んだが、想定外の結果となった。真理が見えなくなり、導かれなくなってしまい、受け入れの耳で聞けなくなってしまったのである。それからアッラーはその恩恵によってかれらを赦してくださったが、その後さらにまた真理が見えなくなり、正しく聞けなくなるということが、かれらのうち多くの者に起こった。アッラーはかれらの行いを見ておられ、何一つ隠せるものはなく、行いに応じて報いられるのである。

72) アッラーはすなわちメシアたるマルヤムの子イサーだと言うキリスト教徒は不信仰に陥った。アッラー以外のものに神性を帰したからである。マルヤムの子自身が、「イスラエルの民よ、アッラーただお独りを崇めよ。かれこそはわたしの主であり、あなたがたの主であって、わたしたち皆がかれの僕であることに違いはないのです」と言ったにもかかわらず、である。それはつまりアッラーに別の存在を並び立てる者は天国入りを禁じられ、その居場所は地獄の業火となり、援助者はアッラーの御許にはおらず、待ち構えている懲罰からの救済者もないということである。

73) アッラーは、父と子と聖霊の三位一体だと言うキリスト教徒は不信仰に陥った。アッラーはかれらの言説とは無縁な高みにおわし、複数からなる御方ではなく、並ぶ者なき唯一なる神である。かれらがこの酷い言説をやめない限り、痛ましい懲罰に見舞われるだろう。

74) かれらはこの言説を悔い改めてアッラーに立ち返り、多神崇拜の罪を犯したことへの赦しを求めようとしぬのか。アッラーは不信仰という罪であったとしても、どんな罪からであれ悔い改めて立ち返る者をよく赦してください、信者には慈悲深い御方である。

75) メシアたるマルヤムの子イサーは、一人の使徒に過ぎない。かれらに死が訪れたようにかれにも同じことが起こるのである。またその母親のマルヤムはよく信じる誠実な女性であり、二人とも必要性があってもものを食べていた。食べ物が必要とする者が神でありえようか。よく見てみよ、使徒よ。いかにわれらが唯一性を指し示す様々な印を明らかにし、かれ以外に神性を帰すのが誤りであることを明らかにするかを。にもかかわらず、かれらはこれらの印を否定するのである。それからよく見てみよ。いかにかれらがこうしたアッラーの唯一性を指し示す様々な印を前に真理から逸らされているかを。

76) 言いなさい、使徒よ。アッラー以外のものを崇める者への反証として。「益をもたらすこともできず、害から守ることもできないものを崇めるのですか」と。それ(訳者注:アッラー以外に崇められるもの)は不能だが、アッラーは不能とは無縁な御方である。アッラーだけがあなたがたの言葉を聞いてくださり、かれが見逃すものは何一つない。あなたがたの行いをよく知り、行いに応じて報いられるのである。

77) キリスト教徒に言いなさい、使徒よ。「真理に従う上で、あなたがたが命じられた境界線を越えてはなりません。マルヤムの子イサーについてあなたがたがしたように、多くの人を迷わせた迷妄の民となり、真理の道を踏み外した先祖のやり方を踏襲し、預言者たちを尊敬するうえで、神としてしまうほどに行き過ぎてはなりません。」

本諸節の功德:

- メシアの神性を主張するキリスト教徒の不信仰を明らかにし、それが誤りであることを示し、悔悟へいざなうこと。
- メシアとその母の人間性の証拠の一つが、二人とも食べ物を食べ、それに伴う行為をしたことである。
- 益をもたらすことも害をとどめることもできないのは、アッラー以外の神性を付与された存在が不能なため、神性を持つには値しないことの明らかな証拠である。
- アッラーの被造物である敬虔な人と接するうえで、一線を越えた神聖視の禁止。

لَعْنِ الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ بَنِي إِسْرَائِيلَ عَلَى لِسَانِ
 دَاوُدَ وَعِيسَى ابْنِ مَرْيَمَ ذَلِكَ بِمَا عَصَوْا وَكَانُوا
 يَعْتَدُونَ ﴿٧٨﴾ كَانُوا لَا يَتَنَاهَوْنَ عَنْ مُنْكَرٍ فَعَلُوهُ
 لَبِئْسَ مَا كَانُوا يَفْعَلُونَ ﴿٧٩﴾ تَرَى كَثِيرًا مِنْهُمْ
 يَتَوَلَّوْنَ الَّذِينَ كَفَرُوا لَبِئْسَ مَا قَدَّمَتْ لَهُمْ
 أَنْفُسُهُمْ أَنْ سَخِطَ اللَّهُ عَلَيْهِمْ وَفِي الْعَذَابِ هُمْ
 خَالِدُونَ ﴿٨٠﴾ وَلَوْ كَانُوا يُؤْمِنُونَ بِاللَّهِ وَالْيَوْمِ
 أَنْزَلَ إِلَيْهِ مَا اتَّخَذُوا لَهُمْ أَوْلِيَاءَ وَلَكِنْ كَثِيرًا
 قَمِنَهُمْ فَلْيَسْفُوتَ ﴿٨١﴾ لَتَجِدَنَّ أَشَدَّ النَّاسِ عَدَاوَةً
 لِلَّذِينَ ءَامَنُوا الْيَهُودَ وَالَّذِينَ أَشْرَكُوا وَلَتَجِدَنَّ
 أَقْرَبَهُمْ قَوْمًا لِلَّذِينَ ءَامَنُوا الَّذِينَ قَالُوا إِنَّا نَصْرُوكَ
 ذَلِكَ يَأْتِيهِمْ مِنْهُمْ قَبَائِسٌ وَعِزٌّ وَإِنَّا وَانَّهُمْ
 لَا يَسْتَكْبِرُونَ ﴿٨٢﴾ وَإِذَا سَمِعُوا أَنْزَلَ إِلَى
 الرَّسُولِ تَرَى أَعْيُنَهُمْ تَفِيضُ مِنَ الدَّمْعِ مِمَّا عَرَفُوا
 مِنَ الْحَقِّ يَقُولُونَ رَبَّنَا آمَنَّا فَاكْتُبْنَا مَعَ الشَّاهِدِينَ ﴿٨٣﴾

78) 莊嚴なるアッラーは伝えておられる。かれがイスラエルの民のうち不信仰に陥った者をそのお慈悲から追放したことを、ザブールというダーウードへ啓示した書において、福音書というマルヤムの子イーサーへ啓示した書においてである。そうしたお慈悲からの追放はかれらが犯した罪のせいであり、アッラーの不可侵な禁忌事項への敵対のせいである。

79) かれらはお互いに罪を犯すのを禁じようとしなかったどころか、罪を犯す者は悪行をあからさまに行っていたのである。それもそのはず、すでにかれらには非難する悪行など残っていなかったからであり、邪悪を禁じることを放棄した成れの果てのなんと酷いことか。

80) あなたは見るだろう、使徒よ。ユダヤ教徒の中で不信仰な者の多くが不信仰者を愛し、かれらを鼻屑(ひいき)にするのを。またかれらがあなたに敵対し、一神教徒に敵対するのを見るだろう。不信仰者との親交を結ぼうとするとは、なんと酷いことをするのか。それこそアッラーのお怒りを買ひ、地獄の業火に落とされて永遠に出られなくなる原因なのである。

81) もしユダヤ教徒がアッラーを本当に信じ、その預言者を信じていたならば、多神教徒を友として愛し、信者を差し置いてかれらを鼻屑(ひいき)することはなかっただろう。なぜなら不信仰者を親友とすることは禁じられているからである。しかしながらユダヤ教徒の多くは、アッラーに忠実にお仕えすること、かれとの近しさ、そして信者たちとの近しさから外れているのである。

82) きっとあなたは思い知るだろう、使徒よ。最大の敵はユダヤ教徒であることを。それはかれらの抱く憎悪と嫉妬、高慢さのためであり、偶像崇拜者やその他の多神教徒もそうである。一方、最大の味方は自分たちのことをキリスト教徒と呼ぶ者である。かれらの信者への親愛の情は実に近い。それはかれらの中に学者や行者がいて、高慢ではなく謙虚な者たちだからである。高慢な者には、善良さがその心に達することはない。

83) かれら(エチオピアの)ナジャーシー帝やその側近の心は柔らかく、クルアーンの一部を聴いてそれが真理であることを知ると、畏敬の念から涙するのである。それはかれらがイーサーのもたらしたものを知っていたからであり、「わたしたちの主よ、あなたの使徒ムハンマドにあなたが啓示されたものを信じます。ですから主よ、わたしたちのことも復活の日々に人々に対する証となるムハンマドのウンマ(共同体)の一員としてください。」と言うのである。

本諸節の功德:

- 良識を命じ、邪悪を禁じることの放棄は、呪いとアッラーのお慈悲からの追放をもたらす。
- 信仰の印の一つ、それはアッラーのために愛し、アッラーのために憎むことである。
- アッラーの敵と親しくすることは、アッラーの怒りをもたらす。
- イスラームの民に対するユダヤ教徒や多神教徒の敵対の激しさ、それとは反対にキリスト教徒の諸派はそれが真理の教えであることを知るがゆえにイスラームへの親愛の情を抱いている。